

三重県文化財保護

平成30年度

2020, 3

三重県教育委員会

例 言

- 1 本書は、三重県教育委員会事務局社会教育・文化財保護課が平成 30 年度に実施した文化財保護事業をまとめたものである。
- 2 国史跡齋宮跡の発掘調査の詳細については、齋宮歴史博物館が年報として報告しているので、別途参照されたい。
- 3 市町指定文化財指定・解除及び文化財保護強調週間行事などは、市町教育委員会からの報告をもとに記載した。
- 4 本書記載の市町名・組織名は、各申請書等の記載名称を基本としている。

目 次

I	文化財の指定・登録	
1	県指定文化財の指定	1
2	国指定等文化財の指定等	10
3	市町指定文化財の指定等	12
4	三重県文化財保護審議会	13
II	県実施の調査・保護事業	
1	特天 カモシカ 天然記念物食害対策事業	14
2	世界に誇る三重の文化財記録事業	15
3	世界遺産熊野参詣道保存管理事業	15
4	史 県内遺跡 発掘調査等事業	17
5	県内埋蔵文化財 地域の特色ある埋蔵文化財活用事業	17
6	重文 三重県齋宮跡出土品 美術工芸品保存修理事業	17
III	文化財補助事業等	
1	国庫補助事業	18
2	県費補助事業	27
3	文化芸術振興費補助金	28
4	民間団体による助成	28
IV	文化財の管理・普及	
1	登録審査	29
2	文化財の管理	29
3	国・県指定文化財に関する諸届等	42
4	文化財の公開・普及	46
V	資料紹介	
	県指定有形文化財 建 19 号 石造宝塔	48
	県指定有形文化財 工 77 号 石燈籠	51
	県指定有形文化財 工 56 号 六地藏石幢	54

【表紙 絹本着色仏涅槃図（龍華寺所蔵）】

【裏表紙 三重県内国・県指定等文化財概観】

I 文化財の指定・登録

1 県指定文化財の指定

(1) 美術工芸品

絵第 48 号 けんぼんちやくしよくぶつねはんず
絹本 著 色 仏涅槃図

1 幅

【告 示】三重県教育委員会告示第 3 号

(H31.2.7 発行三重県教育公報第 1763 号)

【指定日】平成 31 年 1 月 28 日

【所在地】松阪市中町 1961 番地

【所有者】宗教法人 龍華寺

【法 量】本紙縦 110.6 cm, 本紙幅 85.4 cm

【年 代】鎌倉時代中期

概要

りゅうげじ
龍華寺は、曹洞宗養泉寺末寺で、もと名庵寺といったようであるが、正保 4（1647）年に龍華寺と称したとされる。

仏涅槃図は釈迦の生涯の物語を描いた仏伝図の一種で、『大般涅槃経』『涅槃経教分』などにに基づき、2 月 15 日に行われる涅槃会の本尊像として多くが制作されたが、本図のように鎌倉時代中期まで遡る作品は数少ない。本図は、ぼったいが跋堤河のほとり、さらそうじゆ四双八隻の沙羅双樹の下で涅槃に入る釈迦と、その涅槃に参集する人々や動物を描いたものである。

図様

がけん
画絹の縁に墨線の枠取りがあり、本図が制作当初の大きさをほとんど失っていないことがわかる。画絹には淡墨がはかれ、図絵全体に夜陰の雰囲気をただよわせている。

画面中央には釈迦が両手を体側にそえ、右脇を下にほうかん宝棺に横たわる姿を表し、その宝棺に向かって右辺側を見せる、いわゆる第一形式の涅槃図である。この形式の代表作は応徳三年(1086)に制作された金剛峯寺所蔵仏涅槃図(「応徳涅槃図」267.6 cm×271.2 cm)であり、本図は、類例の少ない古式涅槃図の伝統をひく構図であることが注目される。また、釈迦の前に置かれた供養台も平安時代末から鎌倉時代初期の涅槃図に描かれる供物台と同類のもので、古式の構図を引くものである。

図中の短冊形 26 箇所には、菩薩・天部・仏弟子などの名称が白下地に墨書される。図の上部左寄りに満月、上部右寄りにまやぶにん摩耶夫人と従者が表される。菩薩衆は、ふげん普賢菩薩がもっとも釈迦寄りに描かれ、もんじゆ みろく文殊、弥勒の三軀である。天部は四天王、あしゆら阿修羅やかるら龍王、迦楼羅などの八部衆数軀、こんごうりきし金剛力士二軀が表される。仏弟子は 15 人で、このなかに含まれるびんずる賓頭盧は、釈迦の法を守護するらかん羅漢を代表させている可能性がある。また、賓頭盧の近くに配されたりゅうおう竜王は釈迦の法の象徴である宝珠を捧げ持っており、釈迦涅槃を通して、釈迦の法

を継承するという意味づけと考えられる。このほか、阿闍世王^{あじゃせおう}、耆婆大臣^{きぼだいじん}、純陀^{じゆんだ}などが表される。図下方には、各々が花果を捧げる姿の動物が描かれる。動物の種類は、いわゆる第二形式の涅槃図に描かれる動物数に比較して少ない。

彩色

釈迦は、肉身に白色の裏彩色を施し、表からは黄色をかけ、朱で肉線を描き起こし、さらに薄く朱で隈取る。脛の線は墨でひき、口唇は朱で隈取り、眉は、墨に白緑を重ね引きする。髪は群青塗り、髪際には白緑を塗る。肉髻珠^{にっけいしゆ}には朱を塗り白線を添える。白毫には白を塗る。肉身を金泥ではなく黄色に表すところは古式である。

釈迦の着衣には、濃い朱彩色の上に群青・緑の彩色で蓮華を含んだ花文を主文に、金泥線で菱入り七宝繫文を地文様として一面に配している。平安時代に制作された古式涅槃図の多くは着衣文様を^{きりかね}載金で表しており金泥線が用いられることはないため、本図の地文様が金泥線で描かれている点は、鎌倉時代の制作であることを示しているとみられる。しかし、袈裟の縁などにみられる彩色文様は、温雅な彩色のみで表されまた白線くくりも見られ、平安時代後期のような古様な趣も見て取ることができる。

釈迦が枕にする蓮台、供物台上の香炉、菩薩の宝冠や、臂釧^{ひせん}・腕釧などの金具の表現には裏箔^{うらはく}が押されており、これらも平安時代以来の古式の技法である。錫杖に架かる衣鉢の内、鉢は裏箔に銀泥塗、包みは銀泥で隈取る。また、本図の場合とはとくに裏彩色がほぼ全面に施される点が特色であり、彩色主義的傾向が見て取れる。



面相は、小鼻から頬にかけて短く肉線をひくなど、おそらく菩薩像から影響を受けた表現がみられ、おおむね古様である。

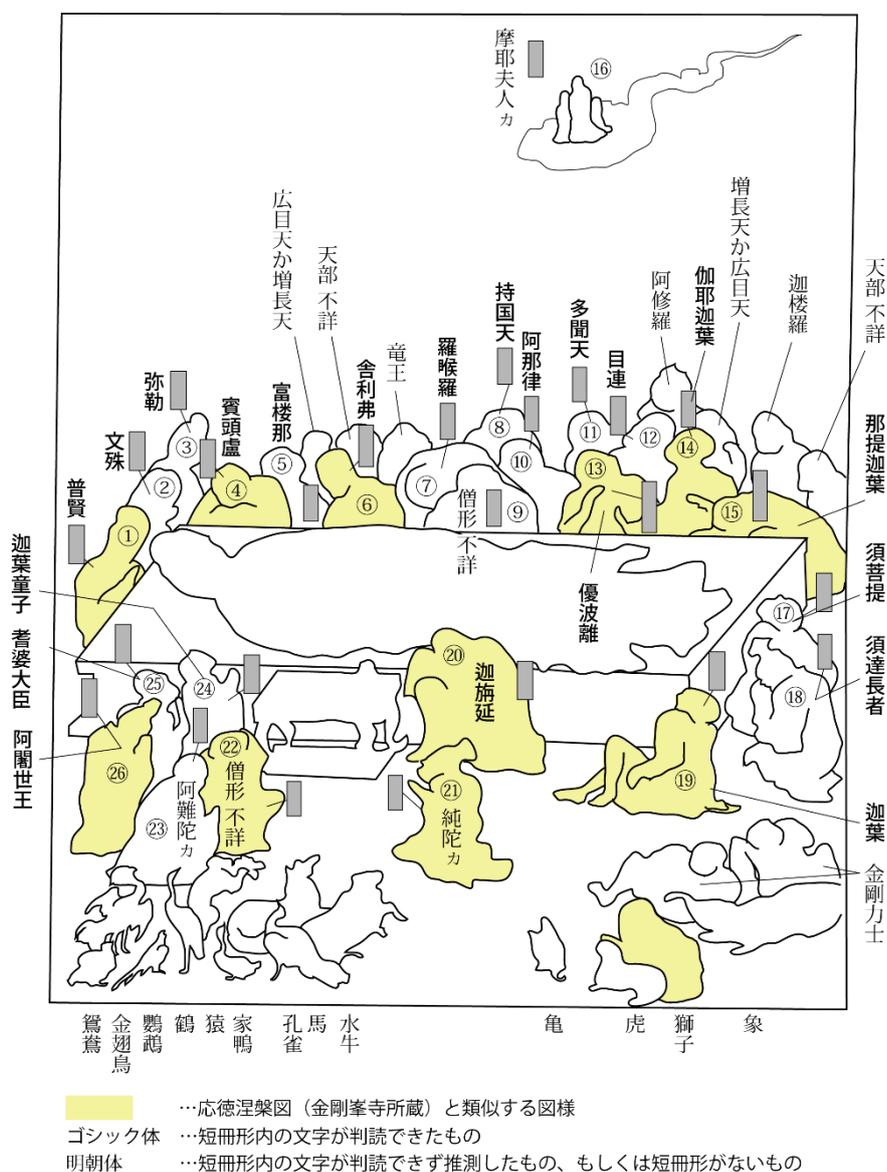
構図

本図のような第一形式の涅槃図は、平安時代後期から鎌倉時代初期にかけて制作された涅槃図に多いが、本図はそのなかでも、前述した「応徳涅槃図」から受けた影響が大きく見て取れる。構図を比較すると、いくつかの人々や獅子などが類似するが、「応徳涅槃図」の富楼那が本図では優波離として描かれるなど、異なる人物から姿を借りていることがわかる。各時代の涅槃図では図様の継承があったことは指摘されているが、本図のような古式涅槃図でその一例が確認できることは重要である。本図の制作にあたっては、数本の古式涅槃図が参考にされたと推測される。

評価

本図は図様、彩色ともに平安時代涅槃図の古式を伝えながら、鎌倉時代中期までには描かれたと推測される作品である。表現描写は本格的である。ほぼ全面に制作当初の裏彩色が残っており、図様も失われることなく保存されている点が貴重である。

三重県内に伝来した鎌倉時代まで遡る絵画は少ない。本図は仏涅槃図のなかでも古い資料であり、本県の文化史上、価値の高い資料である。また、絵画史における仏涅槃図の図様の継承・変遷を考える上でも重要である。



(2) 無形民俗文化財（民俗芸能）

無民第 44 号 日置神社の神事踊

【告 示】 三重県教育委員会告示第 4 号

(H31.2.7 発行三重県教育公報第 1763 号)

【指定日】 平成 31 年 1 月 28 日

【所在地】 伊賀市下柘植

【保持団体】 下柘植宮踊保存会・愛田かっこ踊り保存会



概要

毎年4月10日、日置神社（伊賀市下柘植）の春祭に奉納されている踊りで、県内で「か
んこ（鞆鼓）踊り」と総称される、^{ふりゅう}風流太鼓踊りのひとつである。

伊賀地域のかんこ踊りは、雨乞い祈願や祇園祭の除災の踊りであった。踊りの願は、祈祷
や儀礼を重ねても降雨のなかった時に最後にかける願で、雨が降るまで祈願を続け、雨が降
ったら願解きに「笹踊り」や「花踊り」を奉納したという。かんこ踊りは、かつて伊賀市内
に43ヶ所以上あったと伝わるが、現在では、5地区（山畑、下柘植、愛田、大江、比自岐）
と、歌・太鼓の拍子のみ継承する1地区（島ヶ原）のみとなっている。

踊りの始原は定かでないが、下柘植には嘉永元（1848）年の歌本が残る。明治41（1908）
年に、愛田と下柘植の両地区にあった日置神社が下柘植の日置神社に合祀されるまでは、そ
れぞれの地区がそれぞれの神社で祇園祭に奉納していた。戦中・戦後に幾度か中断したが、
下柘植が昭和52（1977）年、愛田が昭和53（1978）年に復興してからは、下柘植2年、
愛田1年の3年周期で奉納されている。

芸能の構成

現在伝承されている曲目は、下柘植：「御庭しずめ」「御庭踊」「小祝踊」「世の中踊」「じゅんやく踊」、愛田：「宿入」「宿踊」「かたびら踊」「神役踊」である。

基本的な踊りの体形は、神殿・鳥居を背に貝吹きと歌が並び、鬼と踊り子は2列縦隊となる。

人員構成 下柘植：踊り子6人、歌出し4人、貝吹き2～4人、鬼4人

愛田：踊り子6人、歌出し・歌取り各2人、貝吹き2人、鬼2人

衣装は両地区で細部は異なるが、大きくは共通している。踊り子は上衣が紺の短着物に角帯を締め、下衣は裁着袴^{たっつけばかま}、手先は白手甲、両足は白足袋に草履を履く。背にオチズイと呼ばれる花飾りを負い、胸前に締め太鼓を付ける。オチズイは、細く割った竹に紙を染めた花と葉をつけて枝垂れ桜に似せた背負い飾りで、伊賀及び周辺地域のかんこ踊り、祇園祭に特徴的なものである。鬼は赤鬼と黒（青）鬼がおり、腰から瓢箪やでんでん太鼓、印籠やたばこ入れをつるし、頭にシャグマ（毛髪）を被り鬼面をつける。貝吹きと歌出しは紺または白の着物に角帯を締め、半纏を羽織り、笠を被り、白手甲、白足袋、草履または下駄履きである。

なお、愛田では、踊りの事前にシャゴマ（馬）、馬子（火男）、踊り子等の行列が集落を練り歩く、下柘植では、踊りの後にオチズイの花飾りを魔除けとして配るなど、伊賀地域の祇園信仰の名残が認められる。

評価

伊賀のかんこ踊りの大きな特徴は、「じんやくや」「じゅんやくや」などと節毎に囃す「じんやく踊り」を伝えるところにある。「じんやく」は「順逆」の意であり、流行の小歌を順意不同につなぎ合わせた形が、中世の風流踊りの形態を典型的に残すと評価されている。また、じんやく踊りは伊賀地域を中心に近江・山城・大和・伊勢など周辺地域に分布しており、17世紀以降、新大仏寺（伊賀市富永）の雨乞い信仰とともに、周辺に伝播したと推測されている。加えて、東日本に広く分布する獅子踊の入場や退場において、じんやく踊りの歌詞が取り入れられている点も特筆される。

このじんやく踊りは、「神役」「重役」などと記す例が語るように特別な曲とされるが、節拍子が句毎に変化する難しい曲でもあり、肉体的負担が大きいため、廃曲となった例が多い。

日置神社の神事踊は、中世末期の風流踊りの系譜をひく伊賀地域の太鼓踊りの形態を伝えるとともに、じんやく踊りの継承は芸能の発生や成立を示しており、学術的な価値が高い。

無民第 45 号 大江の羯鼓踊

- 【告 示】三重県教育委員会告示 4 号
(H31.2.7 発行三重県教育公報第 1763 号)
【指定日】平成 31 年 1 月 28 日
【所在地】伊賀市馬場
【保持団体】大江羯鼓踊保存会



概要

大江の羯鼓踊は、伊賀市大江地区に伝承される踊りで、毎年4月20日、陽夫多神社（伊賀市馬場）の春祭に奉納される。県内で「かんこ（羯鼓）踊り」と総称される風流太鼓踊りのひとつである。

伊賀地域のかんこ踊りは、雨乞い祈願や祇園祭の除災の踊りとして、かつて伊賀市内に43ヶ所以上あったと伝わるが、現在では5地区（山畑、下柘植、愛田、大江、比自岐）と、歌・太鼓の拍子のみ継承する1地区（島ヶ原）のみとなっている。

大江の羯鼓踊の起源は明確でないが、寛永年間（1624～45年）に雨乞いの踊りとして始まったと言われており、旧大江村の氏神である火明神社^{ほあかし}の境内で祇園祭（旧暦の6月14日）に奉納されてきた。明治41（1908）年、火明神社が陽夫多神社に合祀されてからは、春祭に奉納されている。なお、火明神社跡地と同じ境内に石立寺^{せきりゆうじ}観音堂があり、雨乞いの神事をつかさどる夜叉明王坐像が祀られている。昭和になり、幾度か休止をしているが昭和47（1972）年に大江羯鼓踊保存会が結成され、昭和48（1973）年以降は毎年奉納されている。

芸能の構成

現在踊ることができる曲は、「祠入（しくいれ）踊」「お宮踊」「世の中踊」「御城踊」「御殿（おとの）踊」「虎松踊」「信玄踊」「鐘巻（かねまき）踊」「かえせ」「小順逆」の10曲である。

踊りの役者は、「貝吹き」2人、「楽打ち（大太鼓）」2人、「踊り子」6人、「歌出し」4人、「鬼」4人の計18人で構成される。配列は、「貝吹き」と「楽打ち」が正面から庭を向き、「歌出し」・「踊り子（3人）」・「歌出し」の順で2列をとり、その左右に青と赤の「鬼」が並ぶ。

「貝吹き」は浅葱色の着物に菅笠を被り、わらじを履き、ほら貝を吹く。「楽打ち」は「貝吹き」と同様の衣装であり、台車に載せられた鉦打ちの長胴太鼓を叩く。大太鼓には、桜の枝を挿して飾る。「踊り子」は、腹部にさらしで鞆鼓を巻き、細く割った竹に紙を染めた花と葉をつけて枝垂れ桜に似せた飾りのオチヅイを背負い、浅葱色の着物に、よもぎ色のタツツケ（裁着）姿、わらじを履き、頭にはキジやクジャクなどの羽でできた被り物を着ける。

「歌出し」は、浅葱色の着物に羽織を重ねて、笠を被っており、左手に歌本、右手に団扇を持って拍子をとる。「鬼」は赤鬼2人と青鬼2人の構成をとり、左手に団扇、右手にバイを持つ。

「貝吹き」は子どもの役で、小学校3年生頃から始める。2～3年経つと「楽打ち」に進み、その後、「踊り子」、「歌出し」、「鬼」と順番に経験する。「貝吹き」は「踊り子」のリズムを真似、「楽打ち」は「踊り子」と同じリズムで団扇を動かすため、自然と身体にリズムが刻まれる。「鬼」は踊り子よりもリズムを少し早め、一步先を踊るため、熟練者が担う。

当日の進行

当日は、河合地区市民センターで着替えを行い、神社まで練り歩く。これと並行して神社の宮司ら神職による祭典が執り行われる。祭典が終わると、踊りの奉納が始まる。曲目は、庭鎮めの踊りにあたる「祠入踊」と、「信玄踊」「鐘巻踊」「世の中踊」「かえせ」「小順逆」などから2～3曲が選ばれる。このため、「祠入踊」以外の曲は、年ごとに変わる。奉納は、「祠入踊」と2曲目が踊られた後、小休止となり、その間に年長者による演目の解説が行われる。解説後は、残りの曲目を踊り、奉納が終わる。

大江の羯鼓踊の特徴

特徴として、他の地区より動きが早く、変化が大きいことがあげられる。踊りの所作は大変整えられており、特に足の運びは役者全員が絶えず行っており、体全体で芸態を身につけられるようになっている。

また、曲目のうち「かえせ」は、「小順逆」の冒頭に踊られる曲であるが、ひとつの踊りとして独立していること、台車に載せられた鉦打ちの長胴太鼓が加わることも、特徴にあげることができる。

評価

伊賀のかんこ踊りの大きな特徴は、「じんやくや」などと節毎に囃す「じんやく踊り」を

伝えるところにある。「じんやく踊り」は伊賀地域を中心にして滋賀・京都・奈良など周辺地域に分布するが、伊賀新大仏寺の雨乞い信仰とともに、周辺に伝播したと推測されている。

「じんやく踊り」は「神役」「重役」などと記す例が語るように、特別な曲とされるが、節拍子が句毎に変化する難しい踊りであり、肉体的負担も大きいため、廃曲となった例が多い。

大江の羯鼓踊は、数少ない伊賀のかんこ踊りの「じんやく踊り」の姿を伝えており、学術的価値も高い。

無民第 46 号 比自岐神社の祇園踊

【告 示】 三重県教育委員会告示 4 号

(H31.2.7 発行三重県教育公報第 1763 号)

【指定日】 平成 31 年 1 月 28 日

【所在地】 伊賀市比自岐

【保持団体】 比自岐神社祇園踊保存会



概要

毎年7月第4日曜、比自岐神社（伊賀市比自岐）の祇園祭に奉納されている踊りで、県内で「かんこ（羯鼓）踊り」と総称される、^{ふりゅう}風流太鼓踊りの派生形である。伊賀地域のかんこ踊りは、雨乞い祈願や祇園祭の除災の踊りであった。現在では、5地区（山畑、下柘植、愛田、大江、比自岐）と、歌・太鼓の拍子のみ継承する1地区（島ヶ原）のみとなっている。

地元には万延元（1860）年の歌本複写が残されており、雨乞い祈願に太鼓踊りが踊られてきたことが知られるが、祇園祭に踊られるようになった経緯は明確でない。戦争により中断されたが、昭和 27（1952）年に復興した。その後、断絶するが、昭和 50 年に復興。昭和 51 年には氏子圏の他地区も加わり、比自岐祇園踊保存会が結成された。

芸能の構成

大太鼓と貝の拍子が中心で、鞆鼓を打つ踊り手は登場しない。大太鼓を打つ時の踊り子の所作が「踊り」に発展したものである。大太鼓を数人が一節ずつ交代して打つ芸態は、旧伊賀町や旧阿山町のかんこ踊りとは異なっている。類例は伊賀市法花（廃絶）、同島ヶ原（歌と拍子のみ伝承）、奈良県奈良市都祁吐山^{つげはやま}、宇陀市室生大野の太鼓踊りなど、伊賀西部から奈良県東部（大和高原北部～宇陀川流域）に分布している。

なお、万延の歌本には、「かんこ踊」の曲名が残り、鞆鼓を胸に付けたかんこ踊りが部分的に踊られた可能性もあるが、判然としない。

現在伝承されている曲目は、「鐘巻踊」^{かねまき}「陣立踊」^{じんたち}「こじんやく踊」「よめご踊」「かたびら踊」の 5 曲である。「よめご踊」の前に休憩が入り、その間に踊り子は花笠を、歌出しは菅笠と羽織を脱ぐ。「こじんやく踊」までの前半部がより儀礼的・形式的といえ、かつては「こじんやく踊」の後に祇園花の花取り行事があったという。

基本的な踊りの体形は、神殿・鳥居を背に歌出しが並び、向い合わせに大太鼓を 2 台並べる。大太鼓 1 台につき踊り子が 6 人付き、交代で太鼓を打つ。貝吹きは太鼓の左後方に 3 名控える。神社境内の四方には、くじ付きの団扇を結びつけた笹竹や、枝垂れ桜に似せた造花「ほうろ花」が立てられる。「ほうろ花」は、伊賀地域のかんこ踊りや祇園祭に特徴的なものである。

衣装は、踊り子が丈の短い浴衣に黄色の帯と襷、頭には花笠を被り、足は素足である。歌出しは菅笠を被り、浴衣に黒の羽織を着て、団扇を持つ。貝吹きは浴衣である。

評価

伊賀のかんこ踊りの大きな特徴は、「じんやくや」「じゅんやくや」などと節毎に囃す「じんやく（順逆）踊り」を伝えるところにある。じんやく踊りは伊賀地域を中心にして近江・山城・大和・伊勢など周辺地域に分布しており、17 世紀以降、新大仏寺（伊賀市富永）の雨乞い信仰とともに、周辺に伝播したと推測されている。このじんやく踊りは、「神役」「重役」などと記す例が語るように特別な曲とされるが、節拍子が句毎に変化する難しい曲でもあり、肉体的負担が大きいため、廃曲となった例が多い。じんやく踊りの継承は、芸能の発生や成立を示しており、学術的な価値が高い。

また、比自岐神社の祇園踊は、伊賀西部から奈良県東部（大和高原北部～宇陀川流域）の風流太鼓踊りの地域的特色をよく伝えるものとして、旧伊賀町や旧阿山町のかんこ踊りと並んで重要である。加えて、花取り行事など祇園祭との一体性も保たれている。

24-0252～0262 田中家住宅

11 棟

主屋・東蔵・新蔵・前座敷（洗耳亭）・表納屋・西納屋・表土塀・東土塀・西土塀・南土塀・石垣

登録日：平成 30 年 11 月 2 日

所在地：松阪市飯高町波瀬 212

所有者：個人

建築年代：主 屋：明治 29 年/大正期・昭和前期
増築・昭和 30 年頃改修

東 蔵：明治 38 年

新 蔵：大正元年/昭和 30 年頃改修

前座敷：明治 16 年/明治 40 年頃改修

表納屋：明治 33 年

西納屋：大正期/平成 2 年改修

表土塀：明治 35 年

東土塀：明治 38 年

西土塀：明治 44 年

南土塀・石垣：明治後期



登録基準：(一) 国土の歴史的景観に寄与する

概要：田中家は、江戸時代には和歌山街道波瀬宿の脇本陣を勤めた旧家である。敷地は和歌山街道を挟んで南北にあり、土塀で区切ることによって広大な屋敷構えを重厚にまとめている。主屋は街道に南面して建つ切妻造り二階建てで、開口部に格子や出格子を配した堂々たる外観である。敷地のなかほどにある前座敷（洗耳亭・せんじてい）は、上質な数寄屋意匠の客座敷で、櫛田川に面する南側を開放的につくことで、溪流の眺望を借景に取り込んでいる。これらの建物は、当宿場最大規模を誇る大型の町屋建築として、街道の歴史的景観をかたちづくっている。

24-0263～0266 服部家住宅主屋・納屋・土蔵・表門

4 棟

登録日：平成 31 年 3 月 29 日

所在地：四日市市小杉町 604 ほか

所有者：個人

建築年代：主屋：昭和 9 年

納屋：昭和 13 年頃/昭和後期改築

土蔵：昭和 11 年頃

表門：昭和 12 年頃

登録基準：主屋… (二) 造形の規範となる

納屋・土蔵・表門… (一) 国土の歴史的景観に寄与する



概要：服部家は、江戸末期より農業とともに商業を営んでいた米穀商である。敷地中央に建つ主屋は入母屋造の二階建てで、東西に平屋棟を付し、外壁は杉皮張となっており、垢抜けした外観が印象的である。1 階に数寄屋風、2 階に書院造風の座敷を配し、応接間や食堂は洋室とするなど、良材を多用した上質な近代和風住宅である。納屋は、屋根を入母屋造、外壁を杉皮張として、主屋と調和するような装いとなっている。敷地北隅にある土蔵は渡り廊下で主屋とつながっており、外壁のモルタル仕上げや建物のつくり方に近代的な要素が見て取れる。街路に面した表門は四脚門で、格式ある表構えをしている。

(2) 登録有形文化財（建造物）の抹消

名称	所有者	抹消日	理由
北村酒造土蔵	セルスター工業株式会社	H30.5.10	解体除却

3 市町指定文化財の指定等

(1) 指定

市町	種別	名称	所在地	所有者 (保持団体)	指定日
多気町	有形文化財 (美術工芸品)	木造十一面観音立像	多気郡多気町五桂	珊瑚寺	H30.4.6
度会町	記念物(名勝)	おうむ石	度会郡度会町南中村	南中村生産森林組合	H30.10.23
紀宝町	記念物(史跡)	京城跡	南牟婁郡紀宝町大里	個人	H31.3.6
明和町	無形民俗文化財	佐田西出 天王さんのお社塔	多気郡明和町佐田	西出自治会	H31.3.7
	有形文化財 (美術工芸品)	浄土三部経曼荼羅	多気郡明和町明星	轉輪寺	H31.3.7
四日市市	有形文化財 (美術工芸品)	石造旧日永の追分道標	四日市市日永四丁目	日永神社	H31.3.26
	有形文化財 (美術工芸品)	木造男神・女神坐像	四日市市下之宮町	耳常神社	H31.3.26
伊賀市	有形文化財 (美術工芸品)	明治7年伊賀上野博覧会図	伊賀市阿保	伊賀市	H31.3.28
	有形文化財 (美術工芸品)	伊州御城下破崖損所絵図	伊賀市上野向島町	個人	H31.3.28
	有形文化財 (建造物)	旧上野市庁舎	伊賀市上野丸之内	伊賀市	H31.3.28

(2) 解除

市町	種別	名称	所在地	所有者 (保持団体)	解除日
多気町	記念物(史跡)	立梅井堰ほか5件(立梅井堰)	松阪市飯南町粥見	立梅用水改良区	H30.5.30
松阪市	有形文化財 (美術工芸品)	絹本着色仏涅槃図	松阪市中町	龍華寺	H31.1.28
伊賀市	無形民俗文化財	日置神社の神事踊	伊賀市下柘植	下柘植宮踊り保存会、 愛田かっこ踊り保存会	H31.1.28
	無形民俗文化財	鞆鼓踊り	伊賀市馬場	大江踊保存会	H31.1.28

4 三重県文化財保護審議会

(1) 審議会委員 (任期: 平成 30 年 9 月 24 日～平成 32 年 9 月 23 日)

氏名	担当分野	所属
林 良彦	建造物	奈良文化財研究所客員研究員
黒田 龍二	建造物	神戸大学大学院教授
梶谷 亮治	絵画・工芸	奈良国立博物館名誉館員
山口 泰弘	絵画・工芸	三重大学教授
永島 明子	絵画・工芸	京都国立博物館室長
伊東 史朗	彫刻	和歌山県立博物館長
松岡 久美子	彫刻	近畿大学准教授
藤澤 典彦	彫刻・考古資料・歴史資料 (石造物)	大阪大谷大学講師
岡野 友彦	文書・典籍・歴史資料	皇學館大学教授
岡 薫 偉久子	文書・典籍・歴史資料	天理大学附属天理図書館稀書目録室長
櫻井 治男	民俗	皇學館大学特別教授
古家 信平	民俗	筑波大学教授
鬼頭 秀明	民俗	中京大学講師
広瀬 和雄	考古資料・史跡・埋蔵文化財	国立歴史民俗博物館名誉教授
小澤 毅	考古資料・史跡・埋蔵文化財	三重大学教授
高橋 知奈津	名勝・埋蔵文化財	奈良文化財研究所研究員
向井 譲	天然記念物 (植物)	岐阜大学教授
森 誠一	天然記念物 (動物)	岐阜経済大学教授
前迫 ゆり	天然記念物 (植物)	大阪産業大学大学院教授
道林 克禎	天然記念物 (地質・地形)	名古屋大学教授

(2) 審議会

第1回	日時	平成 30 年 8 月 28 日 (火) 13 時 30 分～16 時 30 分
	場所	三重県庁 7 階 教育委員室 (三重県津市広明町 13)
	内容	○報告 平成 30 年度文化財保護事業について 国指定等文化財の指定等について 国・県指定文化財の現状変更等について ○諮問 平成 30 年三重県指定候補文化財について ○審議 平成 30 年度三重県指定候補文化財の選考及び調査について
第2回	日時	平成 30 年 12 月 17 日 (月) 13 時 30 分～16 時 30 分
	場所	三重県庁 7 階 教育委員室 (三重県津市広明町 13)
	内容	○報告 国指定等文化財の指定等について 国・県指定文化財の現状変更等について ○諮問 三重県指定候補文化財の指定等について ○審議 平成 30 年度三重県指定候補文化財について 三重県指定文化財の指定等について ○答申 平成 30 年度三重県指定候補文化財の指定等について

Ⅱ 県実施の調査・保護事業

1 特天 カモシカ 天然記念物食害対策事業

【事業費 2,970 千円（国 2/3 1,973 千円、県 997 千円）】

(1) 紀伊山地カモシカ保護地域通常調査

おおむね 8 年に一度実施されるカモシカ特別調査の補完のため、特別調査が実施されない年度に、カモシカの生息状況や生息環境の年次変化を把握するための調査である。

調査指導員	富田靖男（元三重県立博物館長・指導委員会議会議長） 武田明正（三重大学名誉教授） 高柳 敦（京都大学講師）			
現地調査員	松 阪 市	木下 幸一・木下 康次	紀北町 旧海山	川端 将文・堀内 俊明
	大 台 町	谷口 文吾・東浦 徹	尾 鷲 市	吉澤 映之・小林 真
	紀北町 旧紀伊長島	森井 大輔・深瀬 優貴		
連絡会議	開 催 日	平成30年7月28日（土）	場 所	大台町役場

(2) 鈴鹿山地カモシカ保護地域通常調査

おおむね 8 年に一度実施されるカモシカ特別調査の補完のため、特別調査が実施されない年度に、カモシカの生息状況や生息環境の年次変化を把握するための調査である。

調査指導員	富田靖男（元三重県立博物館長・指導委員会議会議長） 武田明正（三重大学名誉教授） 高柳 敦（京都大学講師）			
現地調査員	いなべ市藤原町	坂倉 義行・近藤 恒三	菰 野 町	満田 学・森 豊
	いなべ市北勢町	小森 良一・出口 幸雄	四 日 市 市	棚瀬賢一郎・棚瀬 裕貴
	いなべ市大安町	伊藤 友貴・山田 忠俊	鈴 鹿 市	前田 有・小岐須 佐典
連絡会議	開 催 日	平成30年7月22日（日）	場 所	菰野町役場

(3) 特別天然記念物カモシカ保護指導委員並びに保護行政担当者会議

特別天然記念物カモシカの保護地域内およびその周辺における生息状況・個体群の動態、食害状況等について情報収集を行うとともに、今後の施策、食害対策等について協議する会議で、文化庁と開催地の地方公共団体が主催している。平成30年度は秋田県で開催された。

開催日	平成30年10月4日（木）・5日（金）	会 場	秋田温泉さとみ （秋田市添川字境内川原 1 4 2 - 1）
参加者	富田靖男、武田明正、高柳敦、亀井勇希		

2 世界に誇る三重の文化財記録事業【事業費 1,246 千円（県 1,246 千円）】

(1) 映像記録等作成活用事業

「鳥羽・志摩の海女漁の技術」の保存継承と魅力発信のため、海女漁に関連する民俗行事である「石鏡のカツキオリ」について撮影を実施した。また、これまでに制作した「鳥羽・志摩の海女漁の技術」に関する動画をインターネット上で配信した。

(2) 三重・石川・福井3県海女漁合同パネル展

三重・石川・福井3県の海女漁及び関連する習俗について、各県で調査した結果やその魅力などをパネル等により共同展示し、一般県民等に、3県における海女漁の共通性や独自性などを含めた形で紹介することにより、海女漁の認知度向上を図るとともに、その重要性をアピールした。

開催期間	展示場所
平成30年7月9日～同12日	東京・三重テラス
平成30年11月1日～同14日	石川県庁
平成30年11月27日～12月7日	福井県生活学習館
平成30年12月11日～同21日	坂井市役所
平成30年1月11日～同20日	三重県立熊野古道センター
平成30年1月22日～2月3日	三重県立図書館

(3) 情報発信事業

海女漁及び関連する習俗について認知度向上を図るため、平成31年2月10日に東京・三重テラスにおいて、ゲストに上智大学教授のあん・まくどなるど氏、現役の海女5名を迎えて「海女トーク」を開催し、60名の来場者を得た。このほか、「鳥羽・志摩の海女漁の技術」について紹介するリーフレットを作成した。

3 世界遺産熊野参詣道保存管理事業【事業費 330 千円（県 330 千円）】

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」（平成16.7.7登録、平成28.10.24追加登録）の良好な保全管理のため、文化庁、奈良県・和歌山県、関係市町と連携した取組を行った。

(1) 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」三県協議会【三重県負担金 220 千円】

① 趣旨と構成

『世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」三県協議会』（以下、三県協議会という）は、三重・奈良・和歌山の三県が、登録資産の保存・管理・活用の推進を目的に、平成17年度に設置した。会長・副会長・委員及び監事で組織されており、事務局は和歌山県（商工観光労働部観光振興課）に置かれている。三重県における役職の構成は、以下のとおり。

副会長 鈴木英敬（三重県知事）

委員 廣田恵子（三重県教育委員会教育長）、河上敢二（熊野市長）、
村島赳朗（紀北町教育委員会教育長）

監事 森下宏也（三重県教育委員会育成支援・社会教育担当次長）

② 三県協議会総会

開催地 大阪府教育会館たかつガーデン（大阪府大阪市天王寺区）

開催日時 平成30年5月29日（火）13:30～15:00

議事内容 平成29年度の事業報告・決算・監査報告、平成30年度事業計画・予算案

事業計画 保全状況のモニタリング調査と保存管理の実施、専門委員会の開催、普及啓発活動（「紀伊山地の参詣道ルール」の周知）、シンボルマークの利用促進

③ 三県協議会専門委員会

開催地 大阪府教育会館たかつガーデン（大阪府大阪市天王寺区）
開催日時 平成30年11月29日（木）13：30～16：30
議事内容 ・参詣道の保存活動にかかる記録について（共通議題）
・史跡熊野参詣道伊勢路（七里御浜）の浸食について（報告）
出席委員 小野健吉（和歌山大学観光学部教授）、
櫻井敏雄（（公財）和歌山県文化財センター理事長）、
西村幸夫（東京大学大学院工学系研究科教授）、
速水亨（速水林業代表）、
山陰加春夫（高野山大学名誉教授）

④ 第6回 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」行政担当者会議

開催地 奈良県立橿原考古学研究所（奈良県橿原市）
開催日 平成31年1月28日（月）
内容 講演1「世界遺産を巡る近年の動向及び活用について」
鈴木地平（文化庁記念物課）
講演2「国有林の管理経営について」 林野庁奈良森林管理事務所

(2) 県内の世界遺産保存管理

① 三重県世界遺産保全推進協議会幹事会

開催日時 第1回 平成30年6月6日（水）13：30～15：00
場 所 県尾鷲庁舎
内 容 世界遺産熊野参詣道の保全にかかる課題

② 三重県世界遺産保全推進協議会幹事会

開催日時 第2回 平成30年8月29日（水）13：30～15：00
場 所 県尾鷲庁舎
内 容 保全活動マニュアルおよびカルテの作成

③ 世界遺産講演会

開催日時 平成30年12月16日（日） 13:30～15:00
場 所 御浜町役場 くろしおホール（南牟婁郡御浜町大字阿田和6120-1）
内 容 講演「七里御浜はいかにして巡礼道になったか～世界遺産の全容を紐解く～」
伊藤 文彦（三重県埋蔵文化財センター）

4 史 県内遺跡 発掘調査等事業

【事業費 15,016 千円 (国 1/2 7,508 千円・県 1/2 7,508 千円)】

(1) 県営ほ場整備事業地内遺跡発掘調査【事業費 1,664 千円 (国 1/2 832 千円・県 1/2 832 千円)】

県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査費のうち、農家負担分補助事業。

(県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査)

遺跡名	所在地	原因	期間	面積㎡	主要遺構、遺物
深田遺跡 (ほか)	鈴鹿市東玉垣町	農地整備事業 (経営体 育成型)	H30.10.15 ~H31.2.22	1,244	古墳、土坑、溝、ピット等 埴輪(人物、家形、馬形、靱、円筒)、土師器、須恵器、陶器、磁器、斎串
中坪遺跡 (ほか)	松阪市立田町	高度水利機能確保基盤整備事業	H30.10.16 ~ H30.10.18	64	井戸、溝 縄文土器、土師器、須恵器、磁器
計				1,308	

(2) 埋蔵文化財出土遺物保存処理【事業費 1,070 千円 (国 1/2 535 千円、県 1/2 535 千円)】

亀山市井田川茶臼山古墳出土の鉄製品のうち、劣化が進みつつあるものについて保存科学的処理を施し、その恒久保存を図る。

平成 30 年度は、合計 5 点の馬具と剣刀等の保存処理を実施。

(処理委託：(株) 吉田生物研究所)

(3) 国史跡斎宮跡発掘調査【事業費 12,282 千円 (国 1/2 6,141 千円・県 1/2 6,141 千円)】

国史跡斎宮跡解明のために、史跡西部の「初期斎宮」想定地の実態を解明するための調査として、約 400 ㎡の計画調査(第 196 次)を実施した。詳細は斎宮歴史博物館年報を参照されたい。

5 県内埋蔵文化財 地域の特色ある埋蔵文化財活用事業

【事業費 2,000 千円 (国 1/2 1,000 千円・県 1/2 1,000 千円)】

埋蔵文化財を題材とした教材を製作し、主に子どもたちを対象に学校等への出前講座や体験事業を実施して活用し、埋蔵文化財を通じて地域に根差した人材の育成や地域の魅力を引き出すことを目指した。

6 重文 三重県斎宮跡出土品 美術工芸品保存修理事業

【事業費 2,040 千円 (国 1/2 1,020 千円・県 1/2 1,020 千円)】

斎宮跡出土品について保存修理を行う。平成30年度は、緑釉陶器 6 点、黒色土器 2 点、小型模造品 1 点(土師器鉢)について、解体、クリーニング、強化処置、再接合、復元、補彩、及び銅製品 1 点の保存処理を行った。

修理委託：(株) 吉田生物研究所

Ⅲ 文化財補助事業等

1 国庫補助事業

(1) 建造物

事業者	(公財) 諸戸財団	事業名	重文 諸戸家住宅主屋ほか 5 棟建造物保存修理		
所在市町	桑名市	総事業費	3,300,000,000	総事業期間	H22-34
H30度事業額	280,000,000	国補助額	238,000,000	県補助額	21,000,000
事業内容	主屋ほか5棟の解体・半解体工事。 H30度：広間…経師工事・建具工事、玄関及び座敷棟…経師工事・建具工事、洋館…内装工事、 玉突場…内装工事、主屋…仮設工事・解体工事・揚屋工事・木工事・発掘調査				
備考	設計監理：(公財)文化財建造物保存技術協会、工事請負：松井建設(株)名古屋支店、経師工事：(株)松井春峰堂、発掘調査：(株)文化財サービス三重営業所				

事業者	宗教法人 猪田神社	事業名	重文 猪田神社本殿 建造物保存修理		
所在市町	伊賀市	総事業費	39,400,007	総事業期間	H30-31
H30度事業額	23,360,007	国補助額	18,688,000	県補助額	2,336,000
事業内容	檜皮屋根葺き替え及び部分修理。				
備考	設計監理：(公財)文化財建造物保存技術協会、工事請負：谷上社寺工業(株)				

事業者	宗教法人 専修寺	事業名	国宝 専修寺御影堂及び如来堂 建造物保存修理(災害復旧)		
所在市町	津市	総事業費	5,030,000	総事業期間	H30
H30度事業額	5,030,000	国補助額	3,521,000	県補助額	—
事業内容	平成30年9月4日の台風21号の暴風によりき損した部分についての災害復旧。 御影堂の瓦、銹金具、及び如来堂の破風包み銅板復旧。(現地作業は高所作業車による)				
備考	設計監理：(公財)文化財建造物保存技術協会、工事請負：松井建設(株)名古屋支店				

事業者	日本貨物鉄道(株)	事業名	重文 末広橋梁(旧四日市港駅鉄道橋) 建造物保存修理		
所在市町	四日市市	総事業費	10,665,242	総事業期間	H28-30
H30度事業額	3,570,506	国補助額	1,785,000	県補助額	357,000
事業内容	ドラム支持台及び歯車支持台の塗装塗り替え				
備考	設計監理：(株)文化財保存計画協会、工事請負：第一電機工業(株)名古屋支店				

事業者	宗教法人 金剛證寺	事業名	重文 金剛證寺本堂 美しい日本探訪のための文化財建造物魅力向上		
所在市町	伊勢市	総事業費	17,614,800	総事業期間	H29-H30
H30度事業額	7,020,000	国補助額	3,510,000	県補助額	702,000
事業内容	高欄・南面外壁（一部）の摺漆・弁柄塗塗装				
備考	設計監理：特定非営利活動法人 日本伝統建築技術保存会設計事務所、工事請負：(株) 西澤工務店				

事業者	津市	事業名	登録 旧明村役場庁舎建造物保存修理（登録有形文化財）		
総事業費	73,159,240	総事業期間	H27-30		
H30度事業額	26,389,840	国補助額	13,194,000	県補助額	1,847,000
事業内容	耐震補強及び公開活用のための改修工事、保存活用計画改定				
備考	技術指導：(株) 文化財構造計画、工事請負：(株) 杉本建設				

事業者	鳥羽市	事業名	登録 旧鳥羽小学校校舎建造物保存修理（登録有形文化財）		
総事業費	668,074,000	総事業期間	H26-35		
H30度事業額	4,998,000	国補助額	3,248,000	県補助額	—
事業内容	耐震補強工事				
備考	技術指導：(株) 文化財構造計画、工事請負：有限会社マルミ商会				

事業者	個人	事業名	登録 梅田家住宅表蔵ほか2件 美しい日本探訪のための文化財建造物魅力向上促進事業		
総事業費	2,527,200	総事業期間	H30		
H30度事業額	2,527,200	国補助額	1,263,000	県補助額	—
事業内容	表蔵破風及び霧除けの漆喰・なまこ壁の修復、中蔵の雨樋修復、渡廊下の屋根瓦・天窓修復				
備考	工事請負：株式会社広島工務店				

(2) 美術工芸品

事業者	宗教法人 専修寺	事業名	重文 専修寺聖教 美術工芸品保存修理		
所在市町	津市	総事業費	54,789,000	総事業期間	H21-35
H30度事業額	3,569,144	国補助額	1,784,000	県補助額	356,000
事業内容	専修寺聖教 82点のうち、「浄土和讃」「正像末法和讃」「皇太子聖徳奉讃」「法然上人伝法絵」「西方発心集」「唯信抄」6点の修理（平成29・30年度の2か年計画）。				
備考	委託先：(株) 松鶴堂				

事業者	松阪市	事業名	重文 松浦武四郎関係資料 美術工芸品保存修理		
総事業費	36,070,000	総事業期間	H25-35		
H30度事業額	2,200,000	国補助額	1,100,000	県補助額	—
事業内容	松浦武四郎関係資料のうち、「檜林昌建所管」(半紙仮綴、未装丁72通)の修理。				
備考	委託先:(株)坂田墨珠堂				

(3) 無形文化財

事業者	伊勢型紙技術保存会	事業名	重無 伊勢型紙無形文化財(伝承)団体		
所在市町	鈴鹿市	総事業費		総事業期間	H5-
H30度事業額	11,570,000	国補助額	10,000,000	県補助額	700,000
事業内容	技術錬磨のため復刻作品の作成や伝承者の養成のための研修会、関連産地の視察の実施、原材料(型地紙)や諸道具の確保を行い、技術の保存を図った。				

(4) 民俗文化財

事業者	桑名石取祭保存会	事業名	重無民 桑名石取祭の祭車行事民俗文化財伝承・活用等		
所在市町	桑名市	総事業費	46,007,000	総事業期間	H24-H31
H30度事業額	2,720,000	国補助額	1,360,000	県補助額	272,000
事業内容	片町祭車本体漆塗修理を行った。				
備考	指導委員:長谷川嘉和(同志社大学非常勤講師)、鬼頭秀明(中京大学講師)、藤井健三(元京都市産業技術研究所繊維技術センター研究部長)、村田信夫(OFFICE 萬瑠夢)、山崎 剛(金沢美術工芸大学学長)、黒田大介(鈴鹿工業専門学校材料工学科准教授)、保存伝承委員会:平成30年5月11日、平成31年3月6日、工事請負:(株)渡邊美術工藝				

事業者	上野文化美術保存会	事業名	重無民 上野天神祭のダンジリ行事民俗文化財伝承・活用等		
所在市町	伊賀市	総事業費	44,760,000	総事業期間	H28-H35
H30度事業額	4,600,000	国補助額	2,300,000	県補助額	460,000
事業内容	鍛冶町楼車修理、東町楼車車輪修理を行った。				
備考	審議会委員:長谷川嘉和(同志社大学非常勤講師)、藤井健三(元京都市産業技術研究所繊維技術センター研究部長)、植木行宣(元京都学園大学教授)、久保智康、二宮義信、村田信夫(OFFICE 萬瑠夢)、審議会:平成30年6月21日、10月2日、平成31年2月26日、工事請負:澤田建築				

事業者	志摩市	事業名	志摩半島の生産用具及び関連資料民俗文化財伝承・活用等			総事業期間	H30-H32
総事業費	2,000,000	H30度事業額	2,000,000	国補助額	1,000,000	県補助額	—
事業内容	資料整備(写真撮影、実測図作成、聞き取り調査、資料カード作成等)を実施した。						
備考	資料整備指導委員:野村史隆(鳥羽市文化財専門員)、小島孝夫(成城大学教授)、西城利夫(志摩市文化財調査委員)、指導委員会:平成30年6月18日、10月15日、平成31年3月14日						

(5) 記念物

事業者	四日市市	事業名	史 久留倍官衙遺跡歴史活き活き！史跡等総合活用整備		
総事業費	551,708,000	総事業期間	H24-31		
H30度事業額	76,574,000	国補助額	38,287,000	県補助額	5,156,000
事業内容	史跡整備として、八脚門整備等を行う。 H30度はトイレ工事設計や防根・防竹シートの設置等を行った。				
備考	<p>検討委員：山中章（三重大学名誉教授）、黒崎直（富山大学名誉教授）、箱崎和久（奈良文化財研究所都城発掘調査部遺構研究室長）、伊藤久嗣（四日市市文化財保護審議会委員）、中森ゆき子（四日市市文化振興に関する市民会議委員）、古市立美（久留倍遺跡運営委員会会長）</p> <p>検討委員会：平成30年11月6日 業務委託：(株)山田建築設計、(株)文化財保存計画協会、渡辺造園(株) 工事請負：松井建設(株)、イセット(株)</p>				
事業者	鈴鹿市	事業名	史 伊勢国分寺跡 歴史活き活き！史跡等総合活用整備		
総事業費	451,435,000	総事業期間	H20-31		
H30度事業額	31,035,000	国補助額	15,517,000	県補助額	2,172,000
事業内容	遺構表示・舗装・芝張り等の保存整備、国分寺復元図作成				
備考	<p>検討委員：伊藤久嗣（鈴鹿市文化財調査会委員）、加藤二三子（元鈴鹿市青少年育成市民会議会長）、桐生悦夫（元河曲地区青少年育成町民会議会長）、中島義晴（奈良文化財研究所）、箱崎和久（奈良文化財研究所）、林紘（鈴鹿市考古博物館サポート会会長）、渡辺寛（皇學館大学名誉教授）、</p> <p>検討委員会：平成31年3月11日 工事請負：大和土木有限会社、復元図作成業務：早川和子</p>				
事業者	松阪市	事業名	史 松坂城跡 歴史活き活き！史跡等総合活用整備		
総事業費	576,752,000	総事業期間	H26-36		
H30度事業額	19,100,000	国補助額	9,550,000	県補助額	1,337,000
事業内容	石垣保存修理工事および危険木・支障木の調査および伐採				
備考	<p>整備検討委員：千田嘉博（奈良大学教授）、門暉代司（松阪市文化財保護審議会委員）、河北秀実（前三重県埋蔵文化財センター所長）、内田和伸（奈良文化財研究所）、西形達明（関西地盤環境研究センター顧問）</p> <p>検討委員会：平成30年8月30日、11月26日 業務委託：(株)空間文化開発機構（石垣保存修理工事施工監理・樹木伐採実施設計）、中村石材工業株式会社（石垣保存修理工事）、松阪飯南森林組合（樹木伐採）</p>				

事業者	四日市市	事業名	史久留倍官衙遺跡 史跡等買上げ（先行取得償還）		
総事業費	216,438,000	総事業期間	H23-32		
H30度事業額	25,965,000	国補助額	20,772,000	県補助額	1,817,000
事業内容	平成22年度先行取得した史跡地（18,303.26㎡）の経費償還。				

事業者	明和町	事業名	史斎宮跡 史跡等買上げ（直接買上げ）		
総事業費	10,841,591,000	総事業期間	S54-H44		
H30度事業額	9,137,000	国補助額	7,309,000	県補助額	1,370,000
事業内容	史跡指定範囲の公有地化				

事業者	明和町	事業名	史斎宮跡 史跡等買上げ（先行取得償還）		
総事業費	212,501,000	総事業期間	H21-31		
H30度事業額	25,436,000	国補助額	20,348,000	県補助額	3,815,000
事業内容	平成21年度に先行取得した史跡地（7,775㎡）の経費償還				

事業者	宗教法人 神宮	事業名	史旧林崎文庫 史跡等保存活用計画策定		
総事業費	8,598,000	総事業期間	H29-30		
H30度事業額	2,828,000	国補助額	1,414,000	県補助額	282,000
事業内容	保存活用計画の策定。				
備考	指導委員：菅原洋一（三重大学名誉教授）、小澤毅（三重大学教授）、吉川竜実（神宮司庁文教部）、 窪寺恭秀（神宮司庁文教部）、岡田泰明（神宮司庁営林部）、久保英毅（神宮司庁営繕部） 指導委員会：平成30年6月21日、9月28日、11月26日、平成31年1月18日 業務委託：（株）林廣伸建築事務所				

事業者	（公財）諸戸財団	事業名	名諸戸氏庭園 歴史生き活き！史跡等総合活用整備		
所在市町	桑名市	総事業費	692,650,000	総事業期間	H20-34
H30度事業額	38,670,000	国補助額	19,335,000	県補助額	3,867,000
事業内容	庭園の修復整備。H30年度は溝渠護岸の修復、延段不陸調整工事、流れ底・州浜補修工事、藤棚更新Ⅱ期工事、修復剪定等を行った。				
備考	指導委員：尼崎博正（京都造形芸術大学教授）、近藤久郎（桑名市教育委員会教育長）、 菅原洋一（三重大学名誉教授）、高橋知奈津（奈良文化財研究所）、麓和善（名古屋工業大学大学院教授）、花里利一（三重大学教授） 指導委員会：平成30年5月15日、11月28日、平成31年2月26日 業務委託：設計監理…（株）環境事業計画研究所 試掘調査…（株）文化財サービス 工事請負：溝渠護岸修復・藤棚更新Ⅱ期工事…植彌加藤造園（株）、延段不陸調整工事及び流れ底・州浜補修工事…（株）三重造園				

事業者	名張市	事業名	名 赤目の峡谷（災害復旧）歴史活き活き！史跡等総合活用整備		
総事業費	-	総事業期間	H30		
H30度事業額	5,833,080	国補助額	4,083,000	県補助額	-
事業内容	平成30年台風12・20・21号の台風被害による管理用道路等復旧工事、手摺復旧工事を行った。				
備考	業務委託：順真建設（株）、（株）中村工業				

事業者	菰野町	事業名	天 田光のシデコブシ及び湿地植物群落 史跡等買上げ（直接買上げ）		
総事業費	94,997,120	総事業期間	H29-H30		
H30度事業額	62,697,356	国補助額	50,156,000	県補助額	4,388,000
事業内容	指定地北側（Sエリア）の個人所有地の用地買収を行った。				
備考	業務委託：株式会社 コスモ鑑定コンサルタント				

事業者	大台町	事業名	特天 カモシカ 天然記念物食害対策		
総事業費	907,012,000	総事業期間	S56-		
H30度事業額	4,266,000	国補助額	2,844,000	県補助額	497,000
事業内容	カモシカ保護地域における食害対策用保護柵の設置。3カ所 柵総延長1399m				
備考	委託先：宮川森林組合				

事業者	紀北町	事業名	特天 カモシカ 天然記念物食害対策		
総事業費	378,517,840	総事業期間	S58-		
H30度事業額	5,241,840	国補助額	3,494,000	県補助額	611,000
事業内容	カモシカ保護地域における食害対策用保護柵の設置。3カ所 柵総延長1,685m				
備考	委託先：森林組合おわせ				

事業者	いなべ市	事業名	天 ネコギギ 天然記念物再生		
総事業費	30,465,000	総事業期間	H18-		
H30度事業額	2,200,512	国補助額	1,100,000	県補助額	154,000
事業内容	員弁川水系のネコギギ個体群再生のため、生息状況調査ならびに保護増殖を行う。H30度は市内の生息環境調査、保護増殖・飼育、再導入可能場所選定及び方再導入を行った。				
備考	指導委員：森誠一（岐阜経済大学教授）、渡辺勝敏（京都大学大学院准教授）、田代喬（名古屋大学准教授）、里中知之（志摩マリンランド館長） 指導委員会：平成30年6月28日、平成30年11月5日、平成31年2月19日 飼育増殖委託：志摩マリンランド、滋賀県立琵琶湖博物館				

事業者	亀山市	事業名	天ネコギギ 天然記念物再生		
総事業費	10,237,510	総事業期間	H27-32		
H30度事業額	2,037,510	国補助額	1,015,000	県補助額	142,000
事業内容	鈴鹿川水系のネコギギ生息状況把握を続けながら、地域住民への普及啓発を行い、生息環境の再生につなげていく。H30度は鈴鹿川水系のモニタリング及び河川環境調査を実施した。また、保護増殖・飼育及び再放流を行った。				
備考	指導委員：森誠一（岐阜経済大学教授）、渡辺勝敏（京都大学大学院准教授） 北村淳一（三重県総合博物館）、川北要始補（亀山市文化財保護審議会委員） 指導委員会：平成30年9月27日、平成31年2月20日 生息調査委託：環境科学大阪株式会社 河川環境調査委託：環境科学大阪株式会社				

事業者	名張市	事業名	特天 オオサンショウウオ 天然記念物緊急調査		
総事業費	28,851,000	総事業期間	H25-34		
H30度事業額	2,792,176	国補助額	1,360,000	県補助額	190,000
事業内容	赤目の峡谷とその周辺において、オオサンショウウオの生息調査とDNA サンプルング調査を行った。また保護池で交雑種と確認された個体の一時飼育を行った。				
備考	指導委員：松井正文（京都大学大学院教授）、清水善吉（三重県文化財保護指導委員） 岡田純（日本ハンザキ研究所長）、 江川紫（日本サンショウウオセンター職員）、松月茂明 指導委員会：平成30年10月30日、平成31年2月21日 生息調査・保護飼育委託：三重自然誌の会、NPO法人 赤目四十八滝溪谷保勝会 名張市文化遺産活性化実行委員会				

（6）埋蔵文化財

事業者	鈴鹿市	事業名	史 市内遺跡 発掘調査等		
総事業費	117,460,000	総事業期間	H24-H33 (R3)		
H30度事業額	9,000,000	国補助額	4,500,000	県補助額	1,050,000
事業内容	長者屋敷遺跡第37次発掘調査、磐城山遺跡第11次発掘調査、須賀遺跡第9次発掘調査ほか：計6件、伊勢国府跡21報告書作成・刊行、市内遺跡の確認調査：24件				
備考	指導委員：小澤 毅（三重大学教授）、川越俊一（奈良文化財研究所名誉研究員）、 金田章裕（京都大学名誉教授）、渡辺 寛（皇學館大学名誉教授）、 和田勝彦（文化財虫害研究所常務理事）				

事業者	津市	事業名	市内遺跡 発掘調査等		
総事業費	218,152,000	総事業期間	H8-36 (R6)		
H30度事業額	4,522,229	国補助額	2,261,000	県補助額	527,000
事業内容	多気北畠氏遺跡(金国寺跡)地形測量(2,000㎡)、多気北畠氏遺跡第37次(金国寺跡第1次)発掘調査(78㎡)、H29年度市内遺跡試掘・確認調査報告書作成・刊行、市内遺跡の確認調査(15件)、市内遺跡出土金属製遺物保存処理(7点)				
備考	指導委員：稲本紀昭(元京都女子大学教授)、金田章裕(京都大学名誉教授)、服部英雄(九州大学名誉教授)、藤澤良祐(愛知学院大学教授)、増淵徹(京都橘大学教授)、小澤毅(三重大学教授)、渡辺寛(皇學館大学名誉教授) 保存処理委託：株式会社吉田生物研究所				

事業者	松阪市	事業名	史 市内遺跡 発掘調査等		
総事業費	90,268,000	総事業期間	H12-H38 (R8)		
H30度事業額	2,686,000	国補助額	1,343,000	県補助額	313,000
事業内容	市内重要遺跡の確認調査(16件)、山添2号墳出土金属製遺物2点の保存処理				
備考	保存処理委託：公益財団法人大阪市博物館協会 大阪文化財研究所				

事業者	明和町	事業名	史 町内遺跡 発掘調査等		
総事業費	191,562,000	総事業期間	S54-H46 (R16)		
H30度事業額	2,370,000	国補助額	1,185,000	県補助額	276,000
事業内容	町内遺跡の確認調査(13件)、史跡斎宮跡平成29年度現状変更緊急発掘調査報告刊行				
備考					

事業者	志摩市	事業名	市内遺跡 発掘調査等		
総事業費	43,111,000	総事業期間	H22-H33 (R3)		
H30度事業額	2,172,000	国補助額	1,356,000	県補助額	316,000
事業内容	市内重要遺跡の試掘・確認調査(4件)、市内遺跡詳細分布調査(旧大王町・磯部町・浜島町の一部)、塚穴古墳出土金属製遺物保存処理(4点)				
備考	保存処理委託：株式会社イビソク				

(7) 重要伝統的建造物群保存地区

事業者	亀山市	事業名	重伝建 亀山市関宿 伝統的建造物群基盤強化		
総事業費	1,441,183,329	総事業期間	S60-		
H30度事業額	26,178,113	国補助額	13,088,000	県補助額	1,832,000
事業内容	伝建地区内の建物修理3件に関する設計監理、及び間接補助				
備考	設計監理委託：田上設計、中浦建築事務所				

事業者	亀山市		事業名	重伝建 亀山市関宿（地域活性化）伝統建造物群基盤強化		
総事業費	52,467,032		総事業期間	H29-30		
H30度事業額	事業額	12,011,758	国補助額	6,000,000	県補助額	840,000
事業内容	「関の山車」会館の整備。平成30年度は、展示制作の作成委託。					
備考	業務委託：(株)丹青社 *補助名称が平成30年度から変更 *平成29年度事業は繰越により平成31年3月28日まで実施した。29年度事業費は当初33,470,000円であったが、精算額は40,455,274円になった。増額分は事業者負担で、国・県補助額は増額なし。					

(8) 指定文化財管理事業による間接補助

事業者	個人		事業名	重文 町井家住宅主屋書院 防災設備保守点検		
所在市町	伊賀市		総事業費	209,520	総事業期間	H27-36
H30度事業額	209,520	国補助額	37,000	県補助額	37,000	
事業内容	防災設備（自動火災報知器、消火栓、避雷針等）の保守点検					
備考	点検業者：ニッタン(株)中部支社					

事業者	宗教法人 慈恩寺		事業名	重文 木造阿弥陀如来立像 防災設備保守点検		
所在市町	亀山市		総事業費	54,300	総事業期間	H28-37
H30度事業額	54,300	国補助額	13,000	県補助額	14,000	
事業内容	防災設備（自動火災報知器、消火設備（加圧式））の保守点検					
備考	施工業者：総合防災ナカテック、(有)大森電気工業所					

事業者	宗教法人 大村神社		事業名	重文 大村神社宝殿 防災設備保守点検		
所在市町	伊賀市		総事業費	450,360	総事業期間	H30
H30度事業額	450,360	国補助額	113,000	県補助額	112,000	
事業内容	消火栓ボックス・自火報端子台取付用ボックスの取り替え工事、消火栓用ホースの新調					
備考	施工業者：榛原防災センター					

事業者	合同会社 苗秀社		事業名	重文 旧松坂御城番長屋西棟 虫害防除		
所在市町	松阪市		総事業費	965,510	総事業期間	H30
H30度事業額	965,510	国補助額	172,000	県補助額	172,000	
事業内容	東棟の虫害防除のための薬剤散布					
備考	施工業者：(株)シロアリ技研					

2 県費補助事業

(1) 建造物

事業者	宗教法人 春日神社	事業名	春日神社拝殿 保存修理		
所在市町	伊賀市	総事業費	265,743,656	総事業期間	H28-34
H30度事業額	43,586,794	国補助額	-	県補助額	21,793,000
事業内容	解体工事完了、木材補修、木材の購入、危険木の伐採				
備考	指導委員：菅原洋一、黒田龍二、花里利一 設計監理：(株)継承社、工事請負：(株)奥谷組				

(2) 美術工芸品

事業者	福壽寺	事業名	如来形坐像懸仏 防災設備		
所在市町	志摩市	総事業費	397,000	総事業期間	H30
H30度事業額	397,000	国補助額	-	県補助額	198,000
事業内容	監視カメラ（屋外3台、屋内1台）、防犯灯、防犯ブザーの設置				
備考	工事請負：志摩ベリーズ株式会社				

(3) 記念物

事業者	宗教法人 伊奈富神社	事業名	名 伊奈富神社庭園保存修理		
所在市町	鈴鹿市	総事業費	5,984,000	総事業期間	H27-31
H30度事業額	1,000,000	国補助額	-	県補助額	500,000
事業内容	庭園内の池及び島の修復、危険木・支障木の伐採を行った。				
備考	指導委員：中島義晴（奈良文化財研究所）、中村昌幸（樹木医）、衣斐弘行（鈴鹿市文化財調査会） 指導委員会：平成30年6月29日、11月12日 工事請負：木楽				

事業者	玉城町	事業名	史 田丸城跡 保存修理		
所在市町	玉城町	総事業費	19,980,000	総事業期間	H29-H31
H30度事業額	10,000,000	国補助額	-	県補助額	3,500,000
事業内容	平成29年度の台風による災害復旧事業として、崩落した斜面の復旧や測量設計等を実施した。				
備考	指導委員：菅原洋一（三重大学名誉教授）、小澤毅（三重大学教授）、 岩崎澄雄（郷土史）、北垣聡一郎（金沢城調査研究所名誉所長）、 指導委員会：平成30年7月2日 業務委託：株式会社明和ブラテック（測量設計） 工事請負：(株)桜井組				

事業者	日神不動院管理委員会	事業名	天 日神不動院のオハツキイチョウ天然記念物再生保存		
所在市町	津市	総事業費	189,000	総事業期間	H30
H30度事業額	189,000	国補助額	-	県補助額	94,000
事業内容	平成30年度の台風により枝折れした部分の切除及び防腐処理を行い、樹勢の回復をはかった。				
備考	工事請負：有限会社 かめの森				

3 文化芸術振興費補助金

(1) 文化遺産総合活性化事業

事業者	三重県建築士会	事業名	三県文化遺産総合活性化事業		
所在市町	-	総事業費	5,358,365	総事業期間	H28-30
H30度事業額	1,985,900	国補助額	1,733,000	県補助額	-
事業内容	県内の登録有形文化財（建造物）の、トレーディングカード作成。（南勢・東紀州（伊勢市・志摩市・鳥羽市・南伊勢町・尾鷲市・熊野市・御浜町）、中勢・伊賀のうち追加分（津市・伊賀市））作成したトレーディングカードは、当該登録有形文化財（建造物）等で配布。				
備考	<p>三重県が策定した「三県文化遺産総合活性化事業」実施計画に基づき、三重県建築士会が事業を実施。</p> <p><過年度の補助事業> 平成22～27年度 ヘリテージマネージャー人材育成講習会 修了生 116名 平成28・29年度 歴史的建造物調査及び記録事業 紀北町 長井家住宅（29年度） 熊野市 熊野古道おもてなし館・神上中学校校舎（28年度） 御浜町 山本家住宅（28年度）、森本家住宅（29年度） 紀宝町 井戸家住宅・大宅家住宅・竹鼻家住宅（28年度）、藤根家住宅・木下家住宅（29年度） 平成28・29年度 トレーディングカード作成事業（登録有形文化財（建造物）を対象） 平成28年度 北勢（いなべ市・桑名市・朝日町・四日市市・菟野町・鈴鹿市・亀山市） 平成29年度 中勢・伊賀（津市・松阪市・伊賀市・名張市）</p>				

4 民間団体による助成

民間団体による文化財保護助成事業として、市町の推薦を受けた文化財保護事業について推薦を行い、下記の団体が助成を受けた。

助成団体	助成先	所在市町	助成額	事業内容
(公財) 明治安田クオリティオブライフ文化財団	田口念佛踊継承会	度会町	400,000	道具（太鼓、ほら貝）の整備
(公財) 文化財保護・芸術研究助成財団	春日神社	伊賀市	400,000	拝殿の修復工事

IV 文化財の管理・普及

1 登録審査

(1) 銃砲刀剣類

審査日：平成30年5月8日、7月17日、9月18日、11月6日、平成31年2月12日

実施場所：県庁舎会議室（津市桜橋）

審査委員：

早川繁一（日本美術刀剣保存協会三重県支部長）
 福井款彦（日本美術刀剣保存協会三重県支部副支部長）
 東世古晃弘（日本美術刀剣保存協会三重県支部理事）
 小川保生（日本美術刀剣保存協会三重県支部理事）
 中西 勤（日本美術刀剣保存協会三重県支部理事）
 河村 肇（日本美術刀剣保存協会三重県支部理事）

	刀剣類	銃砲類	合計
新規登録数	241件	15件	256件
登録証再交付数	41件	1件	42件
製作承認件数	2件	—	2件
所有者変更数	807件	38件	845件
登録証返納数 (輸出返納含む)	76件	2件	78件

(2) 天然記念物 紀州犬

審査日：平成30年5月20日

実施場所：三重県農業研究所（松阪市嬉野）

審査員：岸川徳成（社団法人日本犬保存会審査員・同三重県支部顧問）

木村二三利（社団法人日本犬保存会審査員・同三重県支部顧問）

森本鉄男（社団法人日本犬保存会審査補助員・同三重支部会員）

登録番号	犬名	性別	登録日	所有者住所
831	白眉乃垂門	雄	H30.6.1	熊野市
832	紀伊乃夕月	雌	H30.6.1	尾鷲市
833	桃薫乃鋒華	雌	H30.6.1	御浜町
834	優凧	雌	H30.6.1	津市

(3) 天然記念物 日本鶏

審査日：平成30年5月26日

実施場所：斎宮歴史博物館

審査員：

富田靖男（元三重県立博物館長）
 西川祥一（日本家禽会三重県支部長、
 天然記念物三重県五鶏保存会会長）
 佐々木健二（三重県農林水産部畜産課）

登録番号	鶏種	内種	性別	登録日	所有者住所
1009	小国鶏	白色種	番	H30.6.8	度会郡玉城町
1010	小国鶏	白色種	雌	H30.6.8	鈴鹿市
1011	小国鶏	白色種	番	H30.6.8	鈴鹿市
1012	小国鶏	白藤種	番	H30.6.8	鈴鹿市
1013	小国鶏	白藤種	番	H30.6.8	津市

2 文化財の管理

(1) 文化財保護にかかる会議

① 三重県文化財保護連絡会議

県内における指定文化財及び埋蔵文化財などの保護行政を一層充実させるため、市町教育委員会文化財保護行政担当者との打ち合わせ及び協議を実施した。

回	日時	開催場所	内容
第1回	4月26日（木）13:15～16:20	県松阪庁舎 松阪城跡	平成30年度文化財保護事業の概要、指定文化財に関する事務手続き、石垣調査の現状について等
第2回	11月30日（金）9:30～12:00	三重県総合博物館	事業の現状と課題、文化財保護法改正について、文化財建造物の耐震対策について等

② 三重県文化財保護指導委員会議

県内における指定文化財及び埋蔵文化財などの保護行政を一層充実させるため、市町教育委員会文化財保護行政担当者、三重県文化財保護指導委員との打ち合わせ及び協議を実施した。

地区	日時	開催場所	内容
北勢・中勢・伊賀	4月24日(火) 13:30~15:30	県鈴鹿庁舎	平成30年度文化財保護事業の概要、指定文化財に関する事務手続き等、文化財パトロールの実施
松阪・南勢・志摩・尾鷲・熊野	4月26日(木) 10:00~12:00	県松阪庁舎	

③ オオサンショウウオ保護連絡会議

オオサンショウウオの保護管理について、県関係部局および関係市町に周知するとともに、研究者からの助言を得て保護管理についての情報を共有するため、会議を開催した。

日 時	平成31年3月12日(火) 13:30~17:00	場 所	名張市郷土資料館3階講座室
講 演	「オオサンショウウオ生息に関する環境DNA分析調査」 大津土木事務所 河川砂防課 中村 有克		
報 告 事 項	○オオサンショウウオ保全対策について 三重県伊賀建設事務所、伊賀農林事務所、伊賀市、名張市、 独立行政法人水資源機構川上ダム建設所、国土交通省近畿地方整備局木津川上流河川事務所 国土交通省近畿地方整備局紀伊山系砂防事務所、奈良県宇陀土木事務所 ○オオサンショウウオ緊急調査について 名張市教育委員会・宇陀市教育委員会		
助 言 者	松井正文(京都大学名誉教授)、富田靖男(元三重県立博物館長) 佐藤孝則(天理大学おやさ研究所 教授)、清水善吉(三重自然誌の会事務局) 松月茂明(元日本サンショウウオセンター学芸員)		

④ ネコギギ保護連絡会議

ネコギギの保護管理について、県関係部局および関係市町に周知するとともに、研究者からの助言を得て保護管理についての情報共有を行うため、会議を開催した。

日 時	平成31年2月14日(木) 13:30~17:00	場 所	三重県津庁舎本館6階大会議室
講 演	「土木工事で創出可能な繁殖間隙の開発への取り組み」 国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所 調査課長 川村 昭彦		
事 例 報 告	○現状変更等事例報告 桑名建設事務所、鈴鹿建設事務所、津建設事務所、松阪建設事務所、伊勢建設事務所 津市建設部、中日本高速道路株式会社 ○いなべ市ネコギギ再生事業について いなべ市教育委員会事務局 生涯学習課 ○亀山市ネコギギ再生事業について 亀山市生活文化部文化スポーツ課まちなみ文化財グループ		
助 言 者	森誠一(岐阜経済大学教授)、渡辺勝敏(京都大学大学院准教授)、 田代喬(名古屋大学減災連携研究センター准教授)		

⑤ オオダイガハラサンショウウオ学習会

オオダイガハラサンショウウオの保護について関係者の理解を深めるため、三重森林管理署、三重県農林水産部、三重県で協働して、学習会を開催した。



日 時	平成30年7月10日(火)12:30~14:30	場 所	大杉谷国有林千尋峠(多気郡大台町大杉)
内 容	オオダイガハラサンショウウオの生態について調査するとともに、幼生個体の現地視察を実施した。		

(2) 文化財パトロール

県内における指定文化財及び埋蔵文化財包蔵地の管理、保存状況を把握し、適切な処置を講じて文化財保護に万全を期するために、三重県文化財保護指導委員（51名）を任命して巡視活動等を行っている。巡視活動の報告は、随時、社会教育・文化財保護課に行われ、当課では写しを当該市町教育委員会に送付し、行政対応を行っている。

担当地区	保護指導委員名	担当分野	市町名	実施件数
県内全域	嶋村明彦・大城哲也	建造物		
	清水善吉・山野直也・中野環	天然記念物		
北勢	時田英彦・久安典之	建造物	桑名市	11
			いなべ市	1
			木曽岬町	0
	松本覚・渡辺尚登・浅尾悟	埋蔵文化財	東員町	0
			四日市市	7
			菰野町	3
			朝日町	0
	市川正人・桐生定巳	天然記念物	川越町	0
			鈴鹿市	13
			亀山市	15
中勢	大森尚子・山田幸三	建造物	津市	13
	瀧川和也・藤田直信	彫刻	松阪市	19
	浅生悦生・林和範・木野本和之・西田尚史・増田安生・奥義次・縣拓也	埋蔵文化財	多気町	3
			明和町	1
西川浩之・中優・川岸悟・高松隆吉・杉澤学	天然記念物	大台町	7	
南勢	松月久和・東原達也	建造物	伊勢市	7
	藤田直信	彫刻	鳥羽市	10
	奥義次・縣拓也・村上喜雄・山本達也・北畠充生	埋蔵文化財	玉城町	1
			度会町	4
			南伊勢町	3
	中優	天然記念物	大紀町	0
志摩市			1	
伊賀	滝井利彰・岩見勝由	建造物	伊賀市	31
	瀧川和也	彫刻		
	寺岡光三・大花健生・谷戸実	埋蔵文化財	名張市	5
	杉澤学	天然記念物		
東紀州	宮原良雄	建造物	尾鷲市	22
	岩本直樹・福村直昭	建造物・彫刻	紀北町	47
	家崎彰・福村直人	埋蔵文化財	熊野市	67
	山本和彦・更屋好年	天然記念物	御浜町	7
	高須清教・西村功・植松元夫・東公雄・向井弘晏	熊野参詣道	紀宝町	4

(3) 発掘調査届等

	92条	93条											94条											99条	合計					
		道路	住宅	個人住宅	工場	店舗	住宅兼工場・店舗	その他建物	宅地造成	公園造成	ガス・電気・水道等	土砂採取	農業関係	その他開発	計	道路	河川	港湾・ダム	学校	住居	その他建物	公園造成	ガス・電気・水道等			農業基盤・農業関係	その他開発	遺跡整備	計	
木曽岬町														0													0	0	0	
いなべ市			11	1						26			4	42	1								1					2	0	44
東員町			2					4		1			7														0	0	7	
桑名市		7	30	1			6	6		24			3	77	2	1					1		13		3		20	0	97	
川越町														0													0	0	0	
朝日町														0													0	0	0	
孤野町							1						1	2													0	0	2	
四日市市		8	74	3	2		5	2		37			6	137	5								3				8	2	147	
鈴鹿市		9	50	1	3		29	5		3	1	13	25	139	3						1	1	2		0		7	10	156	
亀山市		3	59	3			2	5		16		2	8	98									5				5	1	104	
津市	2	2	59		1		4		3	74			52	197	11			1		1		45	2	3		63	1	261		
松阪市		2	134		5		6	8		118			11	284				2		4		6		6		18	3	305		
明和町			14	2	1		1	4				1	10	33	1												1	7	41	
多気町										6			6	12	1												1	0	13	
玉城町		3	3					1		18			4	29	2												2	1	32	
大台町			1							9			2	12													0	0	12	
度会町								1					6	7													0	0	7	
伊勢市		1	31		3		3	5		22			2	67									1				1	0	68	
鳥羽市										3			3	6									1				1	0	7	
志摩市			3		1		1			19			11	35	2							1					3	1	39	
南伊勢町														0													0	0	0	
大紀町			1				1			6			2	10													0	0	10	
紀北町														0													0	0	0	
尾鷲市														0													0	0	0	
熊野市			3				1						7	11													0	0	11	
御浜町														0													0	0	0	
紀宝町			8										8														0	0	8	
伊賀市		2	4				2						11	19										3			3	2	24	
名張市			2							7			1	10									1				1	0	11	
三重県														0	11	8		1				2	3	9	6		40	4	44	
国・大学	0													0													0	0	0	
計	0	2	37	489	11	16	0	62	41	3	389	1	16	175	1242	39	9	0	4	0	7	5	80	11	21	0	176	32	1450	

(4) 埋蔵文化財の発見

物件名	箱数	発見場所	遺跡名	発見者	土地所有者	保管場所	発見	通知
土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、山茶碗、白磁、鉄製品	4	多気郡明和町大字竹川字花園、祓戸地内	史跡斎宮跡	三重県	明和町長	斎宮歴史博物館	H30.4.6	H30.4.6
土師器、須恵器、灰釉陶器、製塩土器	1	多気郡明和町大字斎宮字西加座2661-1、2666-3、2666-4、266-5、2666-7、2666-8、2667 多気郡明和町大字斎宮字下園2811、2813、2814、2810-4、2810-5、2810-3、2810-2、2810-1、2945、2926-1、2926-3、2926-4、2927-1、2927-2、2965、2953-2、2969-2、2970-2、2970-3、2970-4、2970-5、2968-1、2968-2、2967-1、2967-2、2966-1、2966-2、2964-1、2964-2、2963、2962-1、2962-2	史跡斎宮跡	三重県	明和町長	斎宮歴史博物館	H30.4.6	H30.4.6
弥生土器、土師器	1	多気郡明和町大字斎宮字牛葉324番	史跡斎宮跡	三重県	個人	斎宮歴史博物館	H30.4.6	H30.4.6
土師器、須恵器、灰釉陶器、山茶碗、白磁	2	多気郡明和町大字斎宮字御館地内 多気郡明和町大字斎宮字宮ノ前3116、3119-1、3120-1、3120-2、3121、3122、3131、3130-1、3133-1	史跡斎宮跡	三重県	明和町長	斎宮歴史博物館	H30.4.6	H30.4.6
土師器、須恵器、灰釉陶器、青磁、瓦、土製品	9	多気郡明和町大字竹川字東裏278-8	史跡斎宮跡	三重県	個人	斎宮歴史博物館	H30.4.6	H30.4.6
土師器	1	多気郡明和町大字竹川字花園、祓戸地内	史跡斎宮跡	三重県	明和町長	斎宮歴史博物館	H30.4.6	H30.4.6
土師器、須恵器、灰釉陶器、白磁	2	多気郡明和町大字斎宮字楽殿2889-1	史跡斎宮跡	三重県	個人	斎宮歴史博物館	H30.4.6	H30.4.6
土師器、須恵器、灰釉陶器、山茶碗、土製品、鉄滓	2	多気郡明和町大字竹川字花園、字祓戸	史跡斎宮跡	三重県	明和町長	斎宮歴史博物館	H30.4.6	H30.4.6
土師器、須恵器、灰釉陶器	1	多気郡明和町大字斎宮字楽殿2880-3	史跡斎宮跡	三重県	有限会社宇田工務店	斎宮歴史博物館	H30.4.6	H30.4.6
土師器、須恵器、灰釉陶器	1	多気郡明和町大字竹川字花園、字祓戸	史跡斎宮跡	三重県	明和町長	斎宮歴史博物館	H30.4.6	H30.4.6
土師器・須恵器・陶器	2	松阪市和屋町地内	朝見遺跡	三重県	朝見上土地改良区理事	三重県埋蔵文化財センター	H30.7.5	H30.7.11

物件名	箱数	発見場所	遺跡名	発見者	土地所有者	保管場所	発見	通知
					長			
縄文土器、石器	28	いなべ市北勢町塩崎字空畑地内	空畑遺跡	三重県	国土交通省	三重県埋蔵文化財センター	H30.8.24	H30.8.31
弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、山茶椀、白磁、瓦、土製品、石製品、鉄製品	16	多気郡明和町竹川字中垣内 493-7	史跡斎宮跡	三重県	明和町長	斎宮歴史博物館	H30.9.12	H30.9.18
弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、山茶椀、白磁、青磁、土製品、石製品、鉄製品、銅製品	31	多気郡明和町竹川字中垣内 420	史跡斎宮跡	三重県	個人	斎宮歴史博物館	H30.9.12	H30.9.18
土師器、須恵器、土製品	1	多気郡明和町大字斎宮字楽殿 2889-1	史跡斎宮跡	三重県	個人	斎宮歴史博物館	H30.11.13	H30.11.19
土師器、須恵器、陶器、灰釉陶器、鉄製品	8	多気郡明和町大字斎宮字木葉山 131-2	史跡斎宮跡	三重県	明和町長	斎宮歴史博物館	H30.11.13	H30.11.19
土師器、須恵器	1	多気郡明和町大字竹川字東裏 334-5・334-8・287-4、大字斎宮字鍛冶山 2740-7	史跡斎宮跡	三重県	近畿日本鉄道株式会社	斎宮歴史博物館	H30.11.13	H30.11.19
土師器、須恵器、土製品、鉄製品	8	多気郡明和町大字斎宮字篠林 3147番2・3148番2、字出在家 3233番42	史跡斎宮跡	三重県	個人	斎宮歴史博物館	H30.11.13	H30.11.19
土師器	1	多気郡明和町大字斎宮字内山 3064番地1	史跡斎宮跡	三重県	有限会社テイクオフ	斎宮歴史博物館	H30.11.13	H30.11.19
土師器、陶器	1	多気郡明和町大字斎宮字笛川 1057番地1、1057番地2、1057番地3、1057番地4、1050番地1	史跡斎宮跡	三重県	個人	斎宮歴史博物館	H30.11.13	H30.11.19
土師器	1	多気郡明和町大字斎宮字楽殿 2883-2	史跡斎宮跡	三重県	個人	斎宮歴史博物館	H30.11.13	H30.11.19
縄文土器、土師器、須恵器、陶器、磁器、瓦、金属製品等	38	南牟婁郡紀宝町鶺鴒殿	鶺鴒殿西遺跡	三重県	国土交通省	三重県埋蔵文化財センター	H30.12.19	H30.12.20
土師器、陶器等	4	いなべ市北勢町田辺 地内	田辺城跡	三重県	国土交通省	三重県埋蔵文化財センター	H31.1.21	H31.1.23
弥生土器・土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・山茶椀・磁器・石製品	48	津市安濃町内多	小ブケ遺跡(第4次)・石名田遺跡	三重県	津市長	三重県埋蔵文化財センター	H31.2.1	H31.2.6
土師器・陶器・磁器・瓦・木製品	38	松阪市本町	松坂城下町遺跡	三重県	三重県知事	三重県埋蔵文化財センター	H31.2.1	H31.2.6
縄文土器・土師器・須恵器・磁器	1	松阪市立田町 地内	中坪遺跡	三重県	朝見上土地改良区理事長	三重県埋蔵文化財センター	H31.2.5	H31.2.12
縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、石製品、鉄製品	25	多気郡明和町竹川字中垣内 474-1	史跡斎宮跡	三重県	個人	斎宮歴史博物館	H31.2.15	H31.2.26
弥生土器・土師器・須恵器・陶器・磁器・埴	29	鈴鹿市東玉垣町	深田遺跡(第2)	三重県	鈴鹿市長	三重県埋蔵文化財センター	H31.3.18	H31.3.22

物件名	箱数	発見場所	遺跡名	発見者	土地所有者	保管場所	発見	通知
輪・木製品・果実種			次)・双ツ塚西方遺跡					
剥片	2	志摩市磯部町五知	八ツ手塚状地	三重県	三重県知事	三重県埋蔵文化財センター	H31.3.20	H31.3.27

(5) 埋蔵物の文化財認定

物件名	箱数	発見場所	遺跡名	発見者	土地所有者	保管場所	発見	認定	認定者
専修寺境内遺跡 (H29-1次) 出土遺物 土師器、陶磁器、瓦	2	津市一身田町 2819 番地	専修寺境内遺跡 (H29-1次)	津市教育委員会教育長	専修寺	津市埋蔵文化財センター	H30.3.26	H30.4.6	三重県教育委員会
片野遺跡 (H29-5次) 出土遺物 土師器、須恵器	1	津市一志町 片野 445-5	片野遺跡 (H29-5次)	津市教育委員会教育長	個人	津市埋蔵文化財センター	H30.3.26	H30.4.6	三重県教育委員会
磐城山遺跡第 10 次 出土遺物 弥生土器、土師器、須恵器、山茶碗、石器	70	鈴鹿市木田町 2277、2278、2279、2281、2282	磐城山遺跡第 10 次	鈴鹿市長	個人	鈴鹿市考古博物館	H30.3.30	H30.4.6	三重県教育委員会
須賀遺跡 (第 8 次) 発掘調査出土遺物 弥生土器・磨製石斧・土玉・土師器・須恵器・黒色土器・製塩土器・灰釉陶器	8	鈴鹿市須賀一丁目 1693 番 3、1693 番 5	須賀遺跡 (第 8 次)	鈴鹿市長	個人	鈴鹿市考古博物館	H30.4.16	H30.4.20	三重県教育委員会
早登遺跡出土遺物 土師器等	1	多気郡明和町大字大淀字早登 1725 番 1	早登遺跡	明和町長	個人	明和町 斎宮跡・文化観光課	H30.4.24	H30.5.10	三重県教育委員会
金剛坂遺跡出土遺物 弥生土器	1	多気郡明和町大字金剛坂字辰ノ口 751-52 番	金剛坂遺跡	明和町長	個人	明和町 斎宮跡・文化観光課	H30.4.24	H30.5.10	三重県教育委員会
早登遺跡出土遺物 土師器、石器片	1	多気郡明和町大字大淀字早登 1684、1685-1	早登遺跡	明和町長	個人	明和町 斎宮跡・文化観光課	H30.4.24	H30.5.10	三重県教育委員会
北野遺跡出土遺物 土師器等	1	多気郡明和町大字斎宮字大頭 934 番 1、934 番 4	北野遺跡	明和町長	個人	明和町 斎宮跡・文化観光課	H30.4.24	H30.5.10	三重県教育委員会
鈴鹿関跡出土遺物 土師器・陶器・磁器等	9	亀山市関町木崎字宮ノ前 531、532、533、534	鈴鹿関跡	亀山市教育委員会教育長	亀山市長	亀山市教育委員会	H30.4.25	H30.5.11	三重県教育委員会

物件名	箱数	発見場所	遺跡名	発見者	土地所有者	保管場所	発見	認定	認定者
一反通遺跡（立会） 発掘調査 出土遺物 弥生土器・土師器・ 須恵器・山茶碗	1	鈴鹿市上野 町 744-1、 744-2	一反通遺 跡（立会） 発掘調査	鈴鹿市長	個人	鈴鹿市考古 博物館	H30.5.21	H30.6.4	三重県教 育委員会
小岐須城跡 範囲確 認調査 出土遺物 土師器・陶磁器	1	鈴鹿市小岐 須町南條 1027 番 2	小岐須城 跡範囲確 認調査	鈴鹿市長	個人	鈴鹿市考古 博物館	H30.6.15	H30.6.22	三重県教 育委員会
恵利原遺跡推定地試 掘調査出土遺物 土 器・石器	1	志摩市磯部 町恵利原 1368、 1385-3、 1698		志摩市教育 委員会教育 長	株式会社ヒ デ・ハウジ ング	志摩市教育 委員会 生 涯学習スポ ーツ課	H30.6.4	H30.6.22	三重県教 育委員会
長者屋敷遺跡範囲確 認調査 出土遺物 縄文土器	1	鈴鹿市広瀬 町 1165 番、 1166 番	長者屋敷 遺跡範囲 確認調査	鈴鹿市長	個人	鈴鹿市考古 博物館	H30.6.25	H30.7.11	三重県教 育委員会
片野遺跡（H29-5 次 ②）出土遺物 土師器	1	津市一志町 片野 445-5	片野遺跡 （H29-5 次②）	津市教育委 員会教育長	個人	津市埋蔵文 化財センタ ー	H30.6.27	H30.7.11	三重県教 育委員会
岡太神社遺跡 第 7 次発掘調査 出土遺 物 須恵器・土師器・灰 釉陶器・山茶碗・白 磁・青磁・常滑焼・ 古瀬戸・銅銭・砥石	14	鈴鹿市岡田 1 丁目 12 番 1・2、13 番	岡太神社 遺跡第 7 次発掘調 査	鈴鹿市長	個人	鈴鹿市考古 博物館	H30.7.2	H30.7.12	三重県教 育委員会
甲賀浅野 B 遺跡範囲 確認調査出土遺物 石器	1	志摩市阿児 町甲賀字浅 野 3922 番 1	甲賀浅野 B 遺跡範 囲確認調 査	志摩市教育 委員会教育 長	個人	志摩市教育 委員会 生 涯学習スポ ーツ課	H30.8.10	H30.9.5	三重県教 育委員会
一反通遺跡 範囲確 認調査 出土遺物 弥生土器	1	鈴鹿市上野 町字西久保 495-1	一反通遺 跡 範囲 確認調査	鈴鹿市長	個人	鈴鹿市考古 博物館	H30.9.7	H30.9.21	三重県教 育委員会
寺山遺跡（第 8 次） 発掘調査 出土遺物 土師器・須恵器・瓦・ 石器・鞆羽口	3	鈴鹿市高岡 町 1762 番 1 、1763 番	寺山遺跡 （第 8 次） 発掘調査	鈴鹿市長	個人	鈴鹿市考古 博物館	H30.9.20	H30.10.3	三重県教 育委員会
須賀遺跡（第 9 次） 発掘調査 出土遺物 弥生土器・磨製石 斧・土玉・土師器・ 須恵器・黒色土器・ 製塩土器・灰釉陶 器・二彩陶器・土錘・ 木片・平瓦	12	鈴鹿市須賀 一丁目 1693 番 7	須賀遺跡 （第 9 次） 発掘調査	鈴鹿市長	個人	鈴鹿市考古 博物館	H30.9.18	H30.10.10	三重県教 育委員会
須賀遺跡 範囲確認 調査 出土遺物 弥生土器・灰釉陶 器・土師器	1	鈴鹿市須賀 二丁目 1752 番	須賀遺跡 範囲確認 調査	鈴鹿市長	個人	鈴鹿市考古 博物館	H30.9.18	H30.10.10	三重県教 育委員会
一反通遺跡第 5 次出 土遺物 弥生土器、土師器、 須恵器、山茶碗、陶	8	鈴鹿市上野 町字西久保 495-1	一反通遺 跡第 5 次	鈴鹿市長	個人	鈴鹿市考古 博物館	H30.11.1	H30.11.8	三重県教 育委員会

物件名	箱数	発見場所	遺跡名	発見者	土地所有者	保管場所	発見	認定	認定者
器(常滑焼)、石器									
中山遺跡 範囲確認調査 出土遺物 土師器・須恵器・山茶碗・瓦・焼土	1	鈴鹿市国府町字中山 4056、4066、4069、4070、4074	中山遺跡 範囲確認調査	鈴鹿市長	個人	鈴鹿市考古博物館	H30.11.14	H30.11.29	三重県教育委員会
長者屋敷遺跡範囲確認調査 出土遺物 縄文土器 磨製石斧 土師器	1	鈴鹿市西富田町 1322番、1323番、1324番、1325番、1340番 1	長者屋敷遺跡範囲確認調査	鈴鹿市長	個人	鈴鹿市考古博物館	H30.11.28	H30.12.11	三重県教育委員会
上箕田遺跡 範囲確認調査及び第9次発掘調査 出土遺物 弥生土器	3	鈴鹿市上箕田一丁目 2617番 2	上箕田遺跡範囲確認調査及び第9次発掘調査	鈴鹿市長	個人	鈴鹿市考古博物館	H30.12.4	H30.12.14	三重県教育委員会
津城跡(H30-6次) 出土遺物 陶器、磁器、瓦	1	津市丸之内 19-1	津城跡(H30-6次)	津市教育委員会教育長	東邦瓦斯株式会社	津市埋蔵文化財センター	H30.12.5	H30.12.14	三重県教育委員会
大下遺跡 第1次発掘調査 出土遺物 弥生土器・土師器・須恵器・灰釉陶器・山茶碗・常滑焼・陶器・金属遺物・木質遺物・石	75	鈴鹿市稲生町地内	大下遺跡 第1次発掘調査	鈴鹿市長	鈴鹿市長	鈴鹿市考古博物館	H30.12.25	H31.1.8	三重県教育委員会
矢塚古墳群出土遺物 須恵器・土師器等	5	度会郡玉城町宮古 890	矢塚古墳群	玉城町教育委員会教育長	廣瀬精工株式会社	玉城町教育委員会	H31.1.24	H31.1.31	三重県教育委員会
多気北畠氏遺跡第37次(金国寺跡第1次) 出土遺物 土師器、陶器、磁器、釘	10	津市美杉町下多気字下之世古 2174番、2185番、2186番	多気北畠氏遺跡第37次(金国寺跡第1次)	津市教育委員会教育長	個人	津市埋蔵文化財センター	H31.1.22	H31.2.7	三重県教育委員会
伊奈富神社遺跡(県名勝伊奈富神社庭園) 工事立会調査 出土遺物 土師器・瀬戸美濃・近世陶器・近世磁器・近世瓦・ガラス瓶	1	鈴鹿市稲生西2丁目 9275ほか(伊奈富神社境内地)	伊奈富神社遺跡(県名勝伊奈富神社庭園)	鈴鹿市長	宗教法人 伊奈富神社	鈴鹿市考古博物館	H31.1.28	H31.2.13	三重県教育委員会
ゆふけ遺跡(H30-2次)、浄土寺南・米買遺跡(H30-1次) 出土遺物 土師器	1	津市安濃町浄土寺字コメガイ 575番 1、558番 1	ゆふけ遺跡(H30-2次) 浄土寺南・米買遺跡(H30-1)	津市教育委員会教育長	個人	津市埋蔵文化財センター	H31.2.1	H31.2.18	三重県教育委員会

物件名	箱数	発見場所	遺跡名	発見者	土地所有者	保管場所	発見	認定	認定者
			次)						
須賀城跡出土遺物 陶磁器・瓦等	6	松阪市嬉野 須賀町	須賀城跡	松阪市教育 委員会教育 長	宗教法人 積善寺	松阪市教育 委員会	H31.3.1	H31.3.15	三重県教 育委員会
松坂城跡出土遺物 瓦片・土師器細片・ 陶磁器細片・ガラス 細片等	45	松阪市殿町	松坂城跡	松阪市教育 委員会教育 長	東海財務局 津財務事務 所	松阪市教育 委員会	H31.3.1	H31.3.15	三重県教 育委員会
長荘野遺跡出土遺物 施釉陶磁器片、土師 器片等	1	松阪市宝塚 町	長荘野遺 跡	松阪市教育 委員会教育 長	個人 農林水産省 所管国有財 産管理者 三重県知事	松阪市教育 委員会	H31.3.1	H31.3.15	三重県教 育委員会
草山遺跡出土遺物 土師器片等	1	松阪市久保 町	草山遺跡	松阪市教育 委員会教育 長	個人	松阪市教育 委員会	H31.3.1	H31.3.15	三重県教 育委員会
倉垣内遺跡出土遺物 土師器片、須恵器片、 中世土師器片、陶磁 器片等	1	松阪市豊原 町	倉垣内遺 跡	松阪市教育 委員会教育 長	個人 株式会社才 一三ヤ建設	松阪市教育 委員会	H31.3.1	H31.3.15	三重県教 育委員会
松坂城下町遺跡出土 遺物 陶磁器片等	1	松阪市川井 町	松坂城下 町遺跡	松阪市教育 委員会教育 長	個人	松阪市教育 委員会	H31.3.1	H31.3.15	三重県教 育委員会
大河内城跡出土遺物 中世土師器片、山茶 碗片、陶磁器片、土 師器片、瓦片等	2	松阪市大河 内町	大河内城 跡	松阪市教育 委員会教育 長	西蓮寺	松阪市教育 委員会	H31.3.1	H31.3.15	三重県教 育委員会
天白遺跡出土遺物 土師器片等	1	松阪市嬉野 釜生田町	天白遺跡	松阪市教育 委員会教育 長	個人	松阪市教育 委員会	H31.3.1	H31.3.15	三重県教 育委員会

(6) 出土文化財の譲与

譲与	申請者	譲与文化財の名称	箱数	発見場所	遺跡名	発見
H30.4.10	朝日町教育委員会教育長	須恵器・土師器・山茶碗等	1	朝日町縄生字五福田 1924番1	五福田遺跡	H29.8.29
H30.4.18	鈴鹿市長	弥生土器、土師器	1	鈴鹿市神戸八丁目322番 4地先	萱町遺跡(立会調査)	H29.8.16
H30.4.18	鈴鹿市長	弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、山茶碗、陶器、磁器、石器、玉類、鉄滓、土製品、瓦	14	鈴鹿市須賀一丁目1693番	須賀遺跡(第7次)	H29.9.7
H30.5.9	鈴鹿市長	弥生土器、土師器、常滑焼等	2	鈴鹿市岡田一丁目124番 5の一部	岡田南遺跡(第4次調査)	H29.9.21
H30.5.24	鈴鹿市長	弥生土器、土師器、須恵器	1	鈴鹿市須賀一丁目1693番	須賀遺跡(立会調査)	H29.10.16
H30.5.24	鈴鹿市長	土師器、須恵器、山茶碗	1	鈴鹿市高岡町1855、 1867、1872-1	西ノ岡B遺跡(範囲確認調査)	H29.10.13
H30.5.24	鈴鹿市長	土師器、埴輪	1	鈴鹿市高岡町字寺山 1762-1、1739、1763	寺山遺跡(範囲確認調査)	H29.10.13
H30.5.24	鈴鹿市長	土師器	1	鈴鹿市稲生町842-2、 850-2	大下遺跡(範囲確認調査)	H29.10.13
H30.5.24	四日市市教育委員会教育長	須恵器 土師器	5	四日市市尾平町 3014-3・3014-4	尾平宮前遺跡	H29.7.31
H30.6.15	鈴鹿市長	石器、弥生土器、土師器、須恵器、山茶碗、陶器、磁器	3	鈴鹿市神戸八丁目365番	萱町遺跡(第4次調査)	H29.10.30
H30.6.15	鈴鹿市長	石器、弥生土器、土師器、須恵器、山茶碗等	10	鈴鹿市上野町巷反通 716,735,738-1,740-1, 744-1,744-2番	一反通遺跡(範囲確認調査)	H29.11.1
H30.7.6	鈴鹿市長	土師器	1	鈴鹿市土師町1427	土師南方遺跡(範囲確認調査)	H29.11.14
H30.8.2	松阪市教育委員会教育長	土師器・須恵器・陶磁器等	1	松阪市大塚町	坊海道遺跡	H29.11.30
H30.8.2	松阪市教育委員会教育長	陶磁器・瓦等	1	松阪市魚町・新座町	松坂城下町遺跡	H29.11.30
H30.8.2	松阪市教育委員会教育長	山茶碗等	1	松阪市大塚町	坊海道遺跡	H29.11.30
H30.8.2	松阪市教育委員会教育長	土師器・弥生土器・須恵器等	8	松阪市上川町	浅堀木遺跡	H29.11.30
H30.8.2	松阪市教育委員会教育長	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器等	3	松阪市八重田町	茶屋前遺跡	H29.11.30
H30.8.2	松阪市教育委員会教育長	陶磁器・土師器等	3	松阪市嬉野中川町	新々田遺跡	H29.11.30
H30.8.2	松阪市教育委員会教育長	陶磁器・土師器・瓦等	16	松阪市小野江町	小野江・甚目遺跡	H29.11.30
H30.8.2	松阪市教育委員会教育長	土師器等	1	松阪市嬉野須賀町	天王垣内遺跡	H29.11.30

譲与	申請者	譲与文化財の名称	箱数	発見場所	遺跡名	発見
H30.8.2	松阪市教育委員会教育長	陶磁器・瓦等	1	松阪市飯高町富永	前切遺跡	H29.11.30
H30.8.2	松阪市教育委員会教育長	陶磁器等	1	松阪市西町	松坂城下町遺跡	H29.11.30
H30.8.2	松阪市教育委員会教育長	土師器・須恵器等	1	松阪市殿町	松坂城下町遺跡	H29.11.30
H30.8.2	松阪市教育委員会教育長	陶磁器・土師器・瓦等	11	松阪市新町	松坂城下町遺跡	H29.11.30
H30.8.2	松阪市教育委員会教育長	陶磁器・土師器・弥生土器等	1	松阪市上川町	浅堀木遺跡	H29.11.30
H30.8.2	松阪市教育委員会教育長	土師器・弥生土器等	13	松阪市下村町	神戸遺跡	H29.11.30
H30.8.2	松阪市教育委員会教育長	陶磁器・土師器等	32	松阪市嬉野中川町	新々田遺跡	H30.1.11
H30.8.7	鈴鹿市長	縄文土器・弥生土器・土師器	1	鈴鹿市国府町 2724 番	梅田遺跡 第 2 次調査	H29.12.20
H30.8.7	鈴鹿市長	平瓦・陶器・石版	1	鈴鹿市広瀬町字中起 1234 番、字荒子 1039 番	伊勢国府跡（長者屋敷遺跡）第 36 次調査	H29.12.4
H30.8.21	津市教育委員会教育長	土師器、須恵器、山茶碗	2	津市殿村 1451,1452,1454	殿村大垣内遺跡 (H29-1 次)	H29.12.6
H30.8.21	津市教育委員会教育長	土師器、須恵器	1	津市一志町片野字北浦 445-1 の一部	片野遺跡 (H29-1 次②)	H29.12.11
H30.9.20	津市教育委員会教育長	土師器、土錘	1	津市高茶屋一丁目 445 番 5	北垣内遺跡 (H29-1 次)	H29.1.15
H30.9.25	津市教育委員会教育長	土師器	1	津市戸木町字東出 7012-1	戸木遺跡 (H29-1 次)	H30.2.2
H30.9.25	津市教育委員会教育長	土師器	1	津市一志町小山 26-4	小山中野遺跡 (H29-3 次)	H30.1.30
H30.10.4	鈴鹿市長	埴輪片	1	鈴鹿市石薬師町 452-4	石薬師東遺跡 (範囲確認調査)	H30.2.13
H30.10.4	鈴鹿市長	土師器、須恵器、瓦	1	鈴鹿市国分町 1105-2、 1127-1	国分東遺跡 (工事立会)	H30.2.16
H30.11.22	津市教育委員会教育長	土師器、陶器、磁器、瓦	1	津市丸之内 25 番 12 号	津城跡 (H29-8 次)	H29.11.24
H30.11.22	津市教育委員会教育長	土師器、須恵器	1	津市一志町片野 445-5	片野遺跡 (H29-5 次)	H30.3.26
H30.11.22	津市教育委員会教育長	土師器、陶磁器、瓦	2	津市一身田町 2819 番	専修寺境内遺跡 (H29-1 次)	H30.3.26
H30.12.28	鈴鹿市長	弥生土器、土師器、須恵器、山茶碗	1	鈴鹿市上野町 744-1、 744-2	一反通遺跡 (工事立会)	H30.5.21
H30.12.28	鈴鹿市長	土師器、山茶碗	1	鈴鹿市上田町 553-3	山ノ原遺跡 (工事立会)	H30.3.1

譲与	申請者	譲与文化財の名称	箱数	発見場所	遺跡名	発見
H30.12.28	鈴鹿市長	弥生土器、土師器、須恵器、山茶碗、石器	70	鈴鹿市木田町 2277、2278、2279、2281、2282	磐城山遺跡（第 10 次調査）	H30.3.30
H30.12.28	鈴鹿市長	弥生土器、磨製石斧、土玉、土師器、須恵器、黒色土器、製塩土器、灰釉陶器	8	鈴鹿市須賀一丁目 1693 番 3、1693 番 5	須賀遺跡（第 8 次調査）	H30.4.16
H31.2.6	四日市市教育委員会教育長	土師器、須恵器、灰釉陶器等	36	四日市市西坂部町字山添	川向山添遺跡	H28.11.18
H31.2.6	四日市市教育委員会教育長	土師器、須恵器、石器等	26	四日市市西坂部町字横谷	横谷遺跡	H29.11.28
H31.3.7	玉城町教育委員会教育長	須恵器、土師器、鉄製品等	6	度会郡玉城町世古 391-3～391-11、井倉 332～332-26	間無事古墳、尾崎古墳群	H30.1.22

3 国・県指定文化財に関する諸届等

平成30年4月1日から平成31年3月31日までに申請等が行われた指定文化財に関する現状変更等の諸届の状況は下記のとおりである。なお、すでに許可を得ている現状変更に関する期間変更のみの申請及び所在場所変更のうち元の場所に復する場合の届は含んでいない。

(1) 国指定文化財

① 国宝・重要文化財

文化財名称	種別	現状変更		保存に影響を及ぼす行為	き損	防災施設機能低下	修理	所有者変更	所在場所変更	合計
		国	県・市許可							
諸戸家住宅	建造物	1								1
旧諸戸家住宅	建造物				1					1
末広橋梁	建造物				1					1
専修寺 御影堂	建造物				1					1
専修寺 如来堂	建造物				1					1
専修寺(重要文化財)	建造物				3					3
旧長谷川家住宅	建造物			1	3					4
旧松坂御城番長屋	建造物						4			3
旧賓日館	建造物				3		1			4
大村神社宝殿	建造物					1				1
高倉神社	建造物				1					2
町井家住宅	建造物					1				1
絹本淡彩離合山水図 伊孚九筆自賛がある	絵画							1	1	2
宝塚1号墳出土品	考古資料						1			1
合計		1	0	1	14	2	6	1	1	26

② 史跡・名勝

文化財名称	種別	現状変更		滅失・き損	復旧	合計
		国	県・市許可			
久留倍官衙遺跡	史跡	1				1
伊勢国分寺跡	史跡	1				1
伊勢国府跡	史跡			2		2
谷川土清旧宅	史跡				1	1
松坂城跡	史跡			2	1	3
本居宣長旧宅同宅跡	史跡				2	2
斎宮跡	史跡	23	19			42
旧豊宮崎文庫	史跡	2	2		1	5
離宮院跡	史跡	1				1
赤木城跡及び田平子峠刑場跡	史跡			2	1	3

文化財名称	種別	現状変更		滅失・き損	復旧	合計
		国	県・市許可			
熊野三山	史跡	1	1	5		7
上野城跡	史跡	1	4			5
旧崇広堂	史跡			3	1	4
城之越遺跡	名勝・史跡		1			1
夏見廃寺	史跡		1			1
旧諸戸氏庭園	名勝		2			2
諸戸氏庭園	名勝	5	2	3	2	12
多気北畠氏城館跡	史跡		2			2
北畠氏城館跡庭園	名勝		2			2
三多気の桜	名勝			1		1
二見浦	名勝		5	1		6
赤目の峡谷	名勝		4	1		5
合計		35	51	20	3	109

③ 天然記念物

文化財名称	現状変更		滅失・き損	復旧	合計
	国	県・市許可			
カモシカ	1		5		6
オオサンショウウオ	23	14	4		41
ネコギギ	27	13	5		45
ヤマネ	1	4			5
イタセンパラ	1				1
熊野の鬼ヶ城 附 獅子巖	1	1	1		3
田光のシデコブシ及び湿地植物群落	1				1
御池沼沢植物群落		1			1
大島暖地性植物群落	2				2
九木神社樹叢	1		1		2
大杉谷	1				1
合計	59	33	16		108

(2) 県指定文化財

① 有形文化財

文化財名称	種別	現状変更	き損	修理	所有者変更	所在場所変更	合計
旧諸戸家住宅（六華苑）	建造物		1	1			2
石薬師寺薬師堂	建造物		1				1
御城番屋敷 土蔵	建造物	1	2	1			4
近長谷寺本堂	建造物		1	1			2
入交家住宅	建造物		2	1			3
旧小田小学校本館	建造物	1	1	1			3
石造宝塔（伊賀市 来迎寺）	建造物			1			1
杉谷神社本殿	建造物		1				1
木造聖観音菩薩立像	彫刻					1	1
紙本墨書神事頭番帳	古文書					1	1
石燈籠（勝手神社）	工芸品		1	1			2
太刀、二口の内一口 銘 勢州桑名郡益田庄藤原朝臣村正作 天文十二年五月	工芸品			1			1
太刀、二口の内一口 銘 勢州桑名藤原千子正重 寛文元年十 二月及び同二年正月	工芸品			1			1
天白遺跡出土品	考古資料				1 (管理責任者選任)		1
合計		2	10	9	1	2	24

② 民俗文化財

文化財名称		現状変更	き損	修理	所有者変更	所在場所変更	合計
蝸堂民俗玩具	有形民俗					1	1
三重県水産図解 三重県水産図説	有形民俗					1	1
参宮講看板 附たわらや看板	有形民俗					1	1
宮古の石風呂	有形民俗		1				1
合計			1			3	4

③ 史跡・名勝

文化財名称	種別	現状変更		滅失 き損	復旧	所有者 変更	合計
		県	市許可				
桑名城跡	史跡	1					1
神戸城跡	史跡		1				1
西の追分・東の追分	史跡		1				1
津城跡	史跡		4	1			5
大河内城跡	史跡	1					1
長谷川氏旧宅	史跡・名勝	1					1
田丸城跡	史跡	4					4
鳥羽城跡	史跡	1					1
五ヶ所城跡附愛洲氏居館跡 及墳墓	史跡	1					1
城之越遺跡	史跡			1			1
旧麗澤舎	史跡	1					1
名張藤堂家邸跡	史跡	1					1
伊奈冨神社庭園	名勝	5		2			7
宮川堤	名勝	2					2
合計		18	6	4			28

④ 天然記念物

文化財名称	現状変更		滅失 き損	復旧	所有者 変更	合計
	県	市許可				
嘉例川ヒメタイコウチ生息地	1					1
きりしまみどりしじみ	2					2
市木のイブキ					1	1
おおだいがはらさんしょううお	5	1				6
篠立の風穴	1					1
ジュロウカンアオイ自生地		1				1
逆柳の甌穴	1					1
鈴島暖地性植物群落	2				1	3
石薬師の蒲櫻		1	1			2
合計	12	3	1		2	18

4 文化財の公開・普及

(1) 文化財関係の表彰

○地域文化功労者表彰（文部科学大臣表彰）

文化財保護分野 菅原洋一（元三重県文化財保護審議会会長）

(2) 三重県文化財講習会（第 36 回）

文化財保護に関する知識と技能等の研修を行い、資質の向上を図るとともに、文化財の保存と活用の強化に資するため、文化財保護に携わっている文化財所有者、管理者、三重県文化財保護指導委員、市町文化財保護関係委員、文化財保護行政担当者等を対象として年 1 回、三重県指定文化財等所有者連絡協議会と共催で講習会を行っている。平成 30 年度は一般の参加者にも公開した。

日 時	平成 30 年 11 月 22 日（木）	場 所	三重県総合博物館	参 加 者	96 名
テ ー マ	『歴史的建造物の修理と活用』				
内 容	講 演	「三重県内の歴史的建造物」	西村 美幸（三重県教育委員会 社会教育・文化財保護課）		
		「歴史的建造物の修理 - 専修寺御影堂・諸戸家住宅の例 -」	大城 哲也（(公財)文化財建造物保存技術協会）		
	事例報告	「登録有形文化財 旧明村役場庁舎の修理と活用」	熊崎 司（津市教育委員会）		
	連 絡	「歴史的建造物の耐震診断について」			
見 学	パネル展「三重のステキな建物たち」				

(3) 第 60 回近畿・東海・北陸ブロック民俗芸能大会

近畿・東海・北陸ブロック 12 府県内に伝承されている民俗芸能のうち、無形民俗文化財に指定されるなど、価値が高いものについて特別公開し、各保存団体の伝承活動の活性化をはかるとともに、伝統文化への関心を広く高めることを目的とする。

日 時	平成 30 年 11 月 11 日（日）12:00~16:30
場 所	N T N シティホール（三重県桑名市）
出 演 演 目	桑名石取祭囃子（桑名市）、鹿嶋神社稚児舞・天狗獅子舞（富山県）、青土の太鼓踊り（滋賀県）、加賀万歳（石川県）、大柳生の太鼓踊り（奈良県）、やすらい花（京都府）、勝手神社の神事踊（伊賀市）
主 催	第 60 回近畿・東海・北陸ブロック民俗芸能大会実行委員会、三重県教育委員会
共 催	桑名市、桑名市教育委員会
協 賛	全国民俗芸能保存振興市町村連盟
助 成	公益財団法人岡田文化財団
補助事業費	6,500 千円（国 3,250 千円、県 3250 千円）
助 成 金 等	公益財団法人岡田文化財団助成金 1,000 千円、全国民俗芸能保存振興市町村連盟協賛金 60 千円、文化庁委託金 120 千円

(4) 文化財保護強調週間行事

○文化財保護強調週間（平成30年11月1日～7日）及び近接期間の行事実施状況

	県	市	町	合計
指定文化財公開事業・文化財ウォーク等（文化財を見て歩こう！）	2	7	1	10
実演・発表会・体験教室・シンポジウム等（本物を見て、聞いて、体験する！参加する！）	3	3	2	8
特別展・企画展（博物館・美術館に行こう！）	2	8	3	13
その他のイベント（コンサート・文化財愛護表彰・文化祭等）	0	0	4	4
合計	7	18	10	35

(5) 文化財防火デー

○関連防火運動実施状況（平成31年1月26日以外に実施したものも含む）

	防災訓練	消防設備点検	防災指導	広報活動等
県	2	2	2	2
市	13	16	13	29
町	6	9	8	17
計	21	27	23	48

(6) 文化財保護の組織（平成30年4月1日現在）

社会教育・文化財保護課 課長 山本 寛二

有形文化財班

班長 伊藤 裕偉
 主幹（班長代理） 鈴木 昭子
 主幹 西村 美幸
 主査 上田 克彦
 主任 和澄 さやか

記念物・民俗文化財班

班長 小濱 学
 主幹（班長代理） 新名 強
 主査 高松 雅文
 主任 櫻井 拓馬
 主任 亀井 勇希
 主任 小原 雄也

V 資料紹介

県指定有形文化財 建 19号 石造宝塔

1基

指定日：昭和43年4月13日

所在地：伊賀市上友田3396

所有者：来迎寺

調査の概要

総高約198cm。平成29年9月に、相輪がかつて破損していた部分から再度破損した。修理にあたり、全体の据え直しを実施することとなったため、これに合わせて実測調査を実施した。

この宝塔は、寺伝では上友田北部の字坊ヶ谷の山中、熊野神社の横にあった寺院境内にあり、明治4年に現在地の北方約200mにあった阿弥陀寺に移設され（阿弥陀寺は熊野神社の別当寺という）、その後昭和32年に阿弥陀寺と林香寺が合併して来迎寺が成立し、その境内を旧林香寺とした際に再度当地へ移設された。

石造物の詳細

相輪 上端の宝珠は先端欠損。宝珠下と伏鉢上に請花を表現し、その間に突線で九輪を表現。相輪下部にある伏鉢の直径は笠部の露盤より大きいため、相輪は別塔の部材と考えられる。

笠 下面には塔身首部と合子形に組み合うため円形の段を造作。下面見上げには隅木を2段で表現。頂部には相輪が乗る露盤がある。降棟は3条の凸線で表現され、軒先手前で収束する。

塔身 頂部及び底面は平坦で奉籠孔は無い。軸部は下端に框、側面に側柱を4本表現し、上端に長押（ないしは頭貫）を表す。柱間の4方に観音開きの棧唐戸を表現した扉形を刻む。扉形は、正面と考えられる1面のみ細かい表現をする。高欄部は、側柱の延長上に栴束、その間に込栴と考えられる表現がある。首部は、軸部側柱の延長上に4本の柱、その間に間斗束を表現する。

基礎 上面は平坦。4側面に方形枠を取り、3側面には格狭間、1側面はそれを配さず銘を刻む。右側面の下部には弧状の挟りがあり、台座に設えられた納骨溝の上部にあたる。

銘 判読は極めて困難だが、①のように読める（「/」は改行）。なお、既提示の判読文を②に示す。

① 阿弥□□/念□□□/現世□□/□□□□/應長二年/二月廿八日/造立□

② 阿弥陀寺念佛講衆現世安穩後生善処心長二年二月廿八日造立之（解説板・『三重県史美術工芸』）

台座 2石からなる。反花座を表現し、上面には溝状の挟りがある。溝は中央部ほど深さを増し、中央部付近にある2石間の隙間に至る。基礎右面の弧状挟りと一体で、納骨溝を構成していると考えられる。

石材 花崗岩。相輪は白色だが、笠から台座までの部材は橙色を呈している。

石造物の特徴

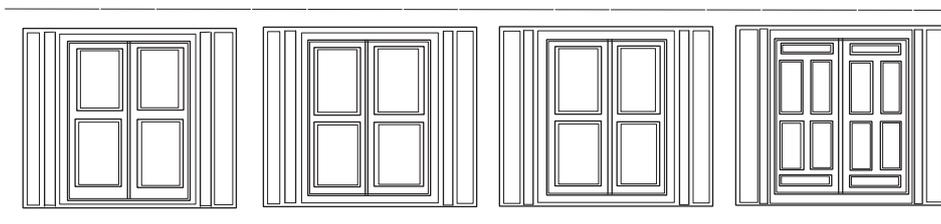
形態 宝塔は、近隣では近江（滋賀県）に多い。しかしこの宝塔は、基礎と台座は大和（奈良県）方面で見られる石塔との共通性が高い。また、塔身の扉形を棧唐戸とするのも近江ではあまり見られない。このため、宝塔という要素は近江から受容し、それを大和に見られる要素（様式）で表現したと考えられる。したがって当石塔は、両地域の要素を折衷的に含んだものとして評価できると考えられる。

納骨溝 今回の調査で、台座と基礎に刻まれた納骨溝を確認した。納骨溝下端は台座の中央に向かって降り、2石の間には隙間がある。納骨孔を伴った石塔の発掘調査事例から、おそらくは台座下に空洞部があり（他では、大型の甕を据える事例がある）、納骨溝を経て遺骨がそこに納められたと考えられる。

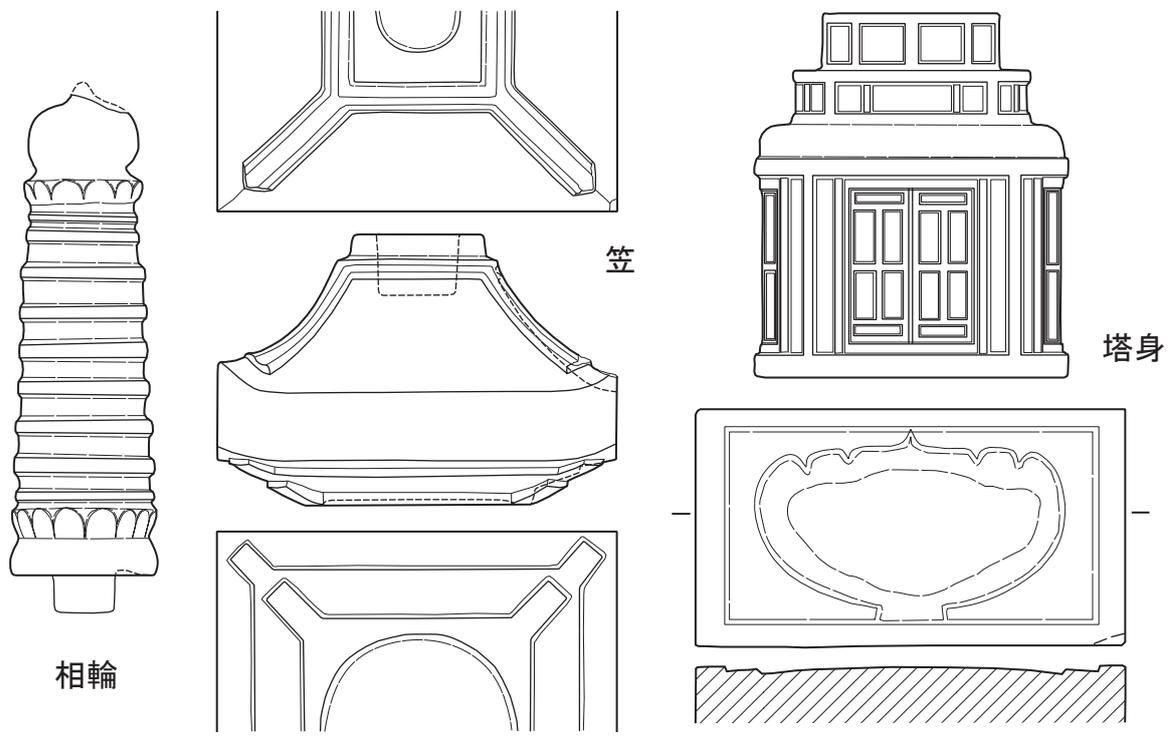
来迎寺宝塔は、大和・近江からの石塔文化を伊賀で受容したあり方を知るうえで貴重なだけでなく、畿内及びその周辺に展開した納骨信仰に伴う資料としても貴重である。



写真1 石造宝塔（修理後）



塔身扉形展開図

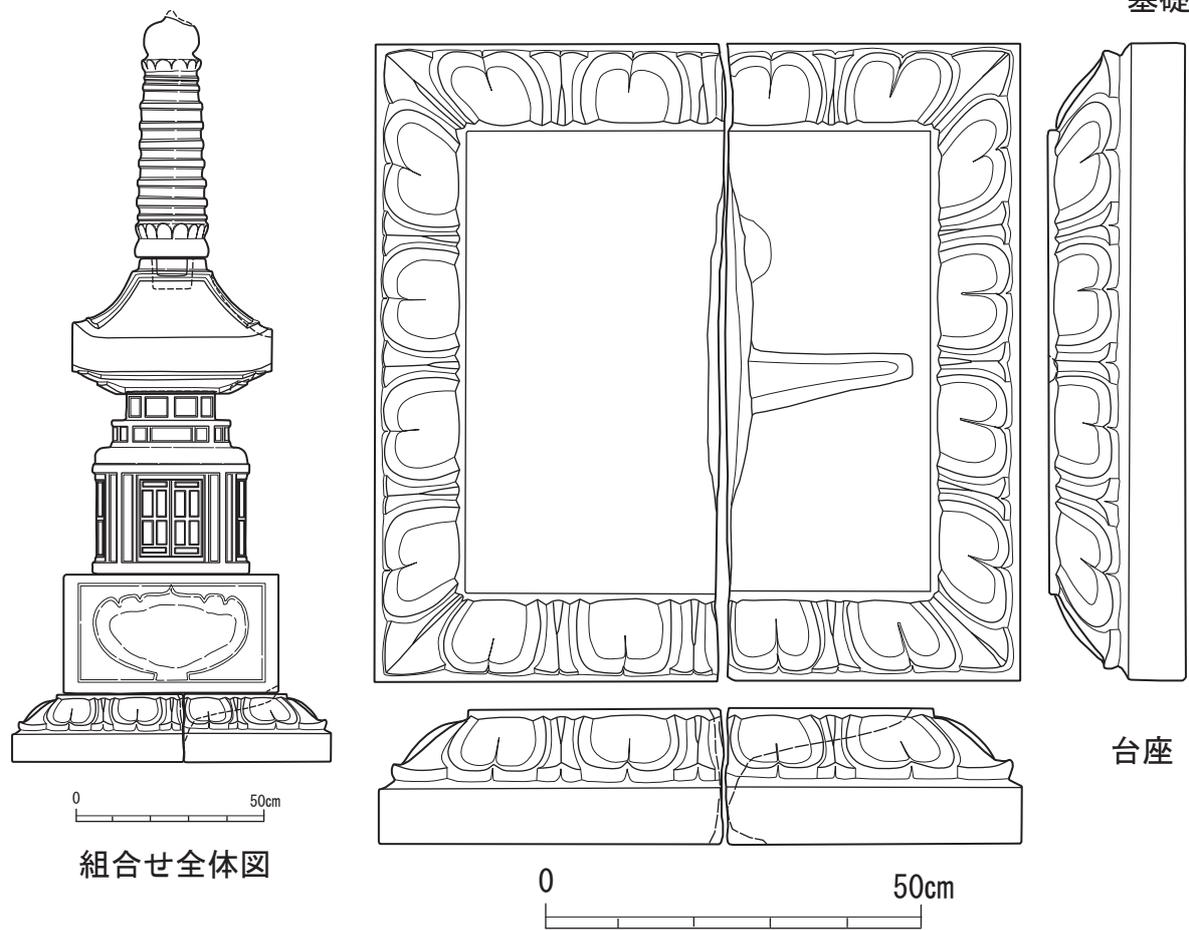


相輪

笠

塔身

基礎



組合せ全体図

台座

図1 石造宝塔実測図



写真2 笠裏面

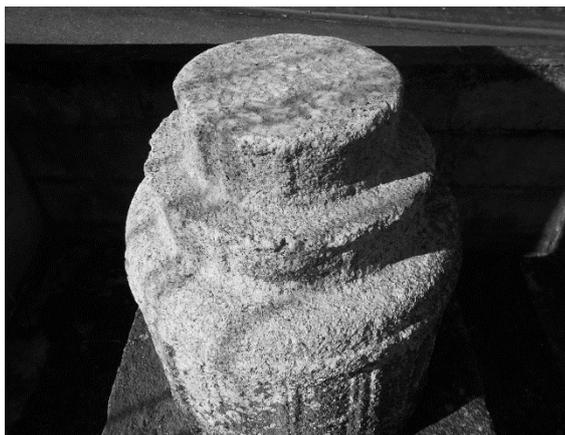


写真3 塔身上面



写真4 塔身裏面



写真5 基礎上面



写真6 基礎裏面



写真7 台座上面（納骨溝の状況）



写真8 納骨孔（基礎と台座）



写真9 上友田地内の宝塔

指 定 日：昭和 16 年 10 月 21 日

(平成 9 年 10 月 7 日 史跡→工芸品 種別変更)

所 在 地：名張市黒田字溜り 1176 番地

所 有 者：勝手神社

調査の概要

平成 30 年 6 月 19 日、転倒によって、中台・竿以外の各部が外れている状態で発見された。同年 6 月 18 日に発生した大阪北部を震源とする地震 (M6.1) によるものと推測される。転倒による欠損はほぼなく、再設置に伴って実測調査・クリーニングを実施した。

石造物の詳細

勝手神社境内の本殿に昇る階段下に位置する。全体的に形の整った優秀な六角燈籠で、いわゆる「春日燈籠」と呼ばれる形式である。無銘であるが、室町時代前期頃の造立と考えられる。

宝珠 五輪塔の空風輪が転用されている。高さは 21.2cm である。

笠 平面形は六角形で、高さ 22.8cm、幅 68.0cm。笠上面で宝珠と組み合う柄穴の深さは 2.5cm。下面には火袋のあたり痕がある。葺手は 6 箇所のうち 3 箇所が欠損する。制作時期は、南北朝頃と考えられる。

火袋 平面形は六角形で、高さ 26.0cm、幅 37.0cm、一辺の幅は 19.0cm。火口、無地、窓で構成される。火口は外枠の高さ 15.0cm・幅 14.2cm、枠の内寸が高さ 12.8cm・幅 12.5cm で、内側に約 1cm の段が 2 段みられる。窓は直径 8.5cm で、内側に約 1cm の段差がある。上面は直径 21.2~21.5cm の円形状に削り貫かれている。内部には煤が付着している。無文で、後補の可能性はある。

中台 平面形は六角形で、高さ 16.7cm、幅 53.5cm、一辺の幅は 27.0cm。笠当座の上に反花座を持つ。各面を二区に区切り、格狭間に四ツ目菱を配している。反花は精緻で南北朝頃のものと思われる。

竿 上すばみの円柱形で、柄を含めた全長は 61.1cm、最大幅は 22.8cm。三節を有し、上節と下節は各 2 段、中節は子持ちの算段で、いずれも竿から 1.2cm ずつの膨らみをもつ。竿の下柄は基礎より一回り小さいため、竿と基礎は別個体と考えられ、竿は後補と考えられる。

基礎 平面形は六角形で、高さ 22.6cm、幅 59.5cm、基礎の一辺の幅は 30.0cm。反花をもつ基礎の上に、丸型の受座を配する。竿と組み合う柄穴は直径 11.2cm、深さ 9.7cm。反花座の造作は中台に比べてやや劣り、割付も異なるため、中台とは別個体の可能性がある。

石材 いずれも溶結凝灰岩製 (大洞石) と考えられる。

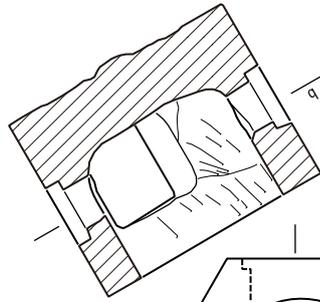
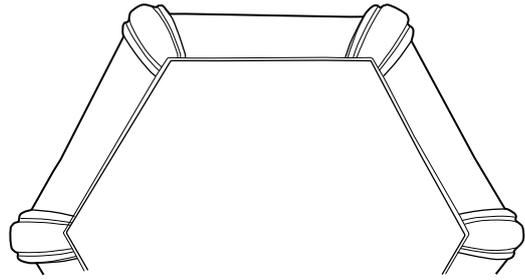
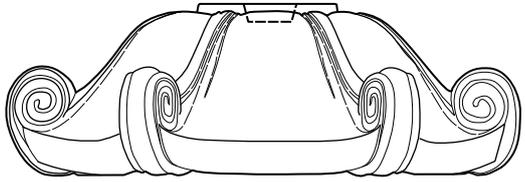
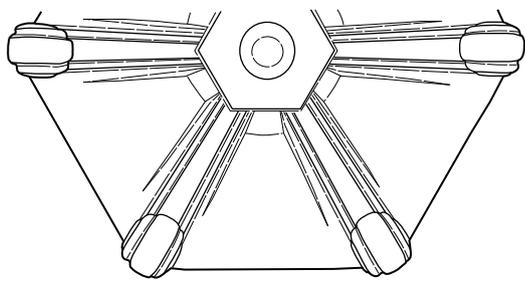
所見

今回の調査によって、宝珠部分だけでなく、竿と基礎など、いくつかの別個体が組み合わさっていることが明らかとなった。勝手神社は名張盆地を一望できる山腹にあり、1,200 年前に東大寺黒田荘無動寺の僧実誉上人が吉野より勧請し、同寺の鎮守としたことが始まりとされる。勝手神社の奥に位置する無動寺は平安時代後期の木造不動明王立像 (重要文化財) を所蔵しており、境内には文明七年(1475)銘の十三重石塔があるなど、古代・中世を通じて重要な寺院であったと推測される。勝手神社石燈籠は現在も参道の最も手前に設置されており、別個体の部材を組み合わせている点も含め、当該地域で長い年月の間大切にされてきたことがわかる資料である。

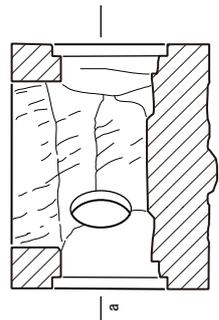
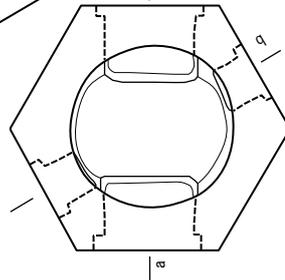
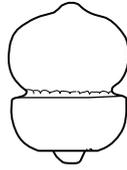
なお、名張市赤目の延寿院にある石燈籠 (重要文化財) は、徳治 2 年 (1307) 銘がある春日燈籠で、鎌倉時代に遡る在銘燈籠としては県内で唯一のものである。勝手神社石燈籠は、延寿院石燈籠の後に当該地域で造立される春日燈籠の形を示すものとして貴重である。なお、同市内にある春日神社石燈籠 (県指定有形文化財) は正平 8 年 (1353) 銘がある四角燈籠で、造立時期は比較的近い資料である。



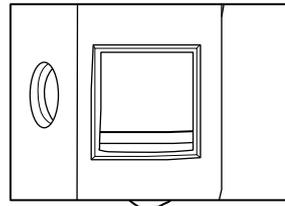
写真 1 石燈籠 (修理後)



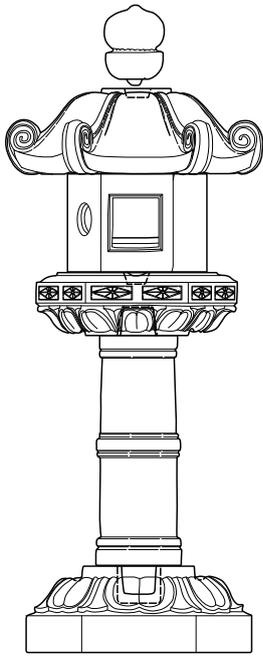
空風輪
(宝珠転用)



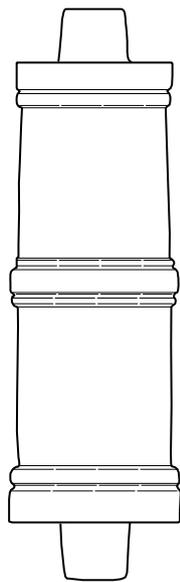
火袋



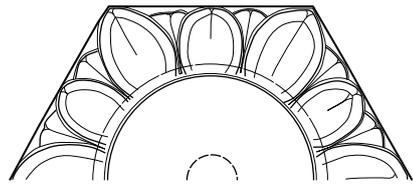
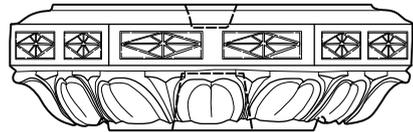
笠



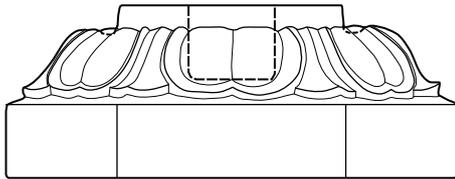
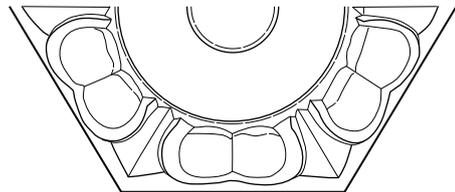
組立図



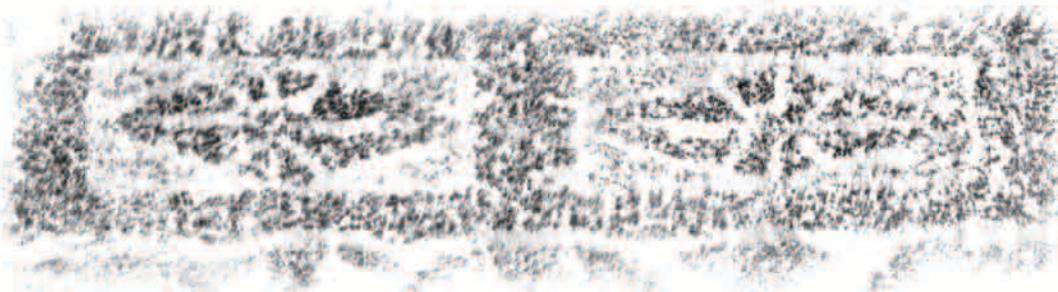
竿



中台



基礎



中台格狭間 (拓本)

図1 石燈籠実測図

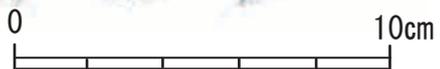




写真2 基礎・竿



写真3 竿



写真4 笠裏面



写真5 中台上面



写真6 火袋内面



写真7 火袋裏面

指 定 日 : 昭和 62 年 3 月 27 日
 所 在 地 : 多気郡明和町斎宮 2317
 所 有 者 : 斎宮中町自治会

調査の概要

平成 30 年 8 月の台風 20 号で、指定文化財を紹介する看板が落下した。明和町が看板を再設置するにあたり、町・県教育委員会が実測調査を実施した。

石造物の詳細

重制六面石幢。現存高約 195 cm。下から、台座、幢身（竿）、中台、龕部、笠、請花、宝珠の順に組み上げる。

台座 六角形。側面は無地。各辺上部に複弁の反花を一弁、隅には間弁を配置。幢身（竿）が乗る位置に円形台輪を突出させる。中央には幢身の柄を差し込む柄孔があると考えられる。

幢身（竿） 円柱形。上下端と中央に合計 3 節を表す。中節を挟んで上下に銘があり「七世父母六親眷属乃至法界平等利益／永春敬白／永正十<癸酉>卯月日」と刻む。上下端には柄があると考えられる。

中台 六角形。側面には方形枠を伴う格狭間を各 2 区画配置。下面は単弁の反花を各面中央と隅に一弁つつ、その間に間弁を配置。幢身と接続する下面には円形の台輪を突出させる。龕部が乗る上面には六角形の低い段を設けている。

龕部 六角形。地藏菩薩立像を各面に配置。舟形光背を龕状に彫り窪め、半肉彫りの像を削り出している。足下には蓮華座が刻まれる。地藏菩薩立像は、合掌形、宝珠（左手）と施無畏印（右手）、宝珠（左手）と錫杖（右手）、幢幡？（欠損不明）、拱手、経巻？、の 6 形態が見られる。

笠 六角形。軒先は多く欠損。屋根上部は球面で、途中から降棟表現がなされ、降棟先端のみ反りがある。軒面には段が、軒下には一条の沈線が表現される。下面は六角形の段を設け、龕部と組み合わせる。上面は破損が見られるが、請花が載る円形の台輪が造作されていた形跡が見られる。中央には、請花の柄を請ける柄孔が穿たれている。

宝珠・請花 宝珠のみ残存。宝珠と請花はそれぞれ別に作られて組まれる。宝珠は上端部を一部欠損。下面に柄孔がある。

石材 緑色岩（硬質砂岩）。

所見

全体的に均整の取れた優品である。実測調査の結果、笠頂部の欠損とともに、宝珠下請花も欠損していることが確認できた。なお、これらの欠損は指定当初からのもので、欠落部分を含めた推定全高は 220 cm と考えられる。

紀年銘から、永正 10(1513)年に永春という人物が六親眷属七世父母等への供養の意味を込め造立したものと分かる。六地藏の像様、中台・台座の反花座など精緻な表現で、その特徴から南伊勢地域で活動していた石工による制作と考えられる。なお、宝珠と請花座を別個に作るものは、伊勢市神久 4 丁目の神久公民館にある重制六面石幢（大永 8(1528)年銘）があり、これも同系統石工による制作と考えられる。



写真 1 六地藏石幢

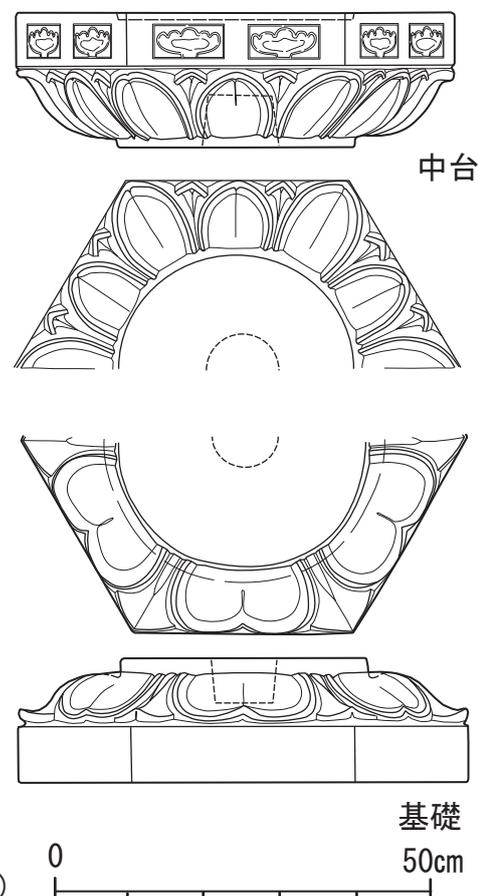
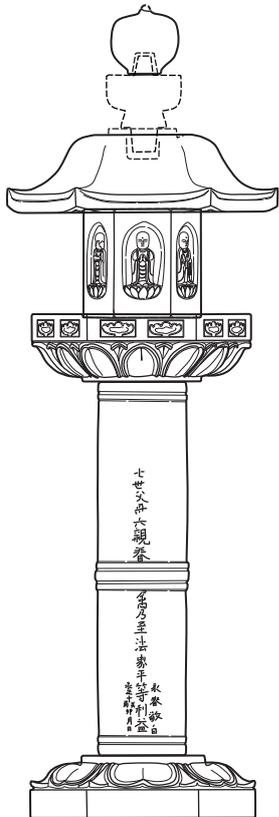
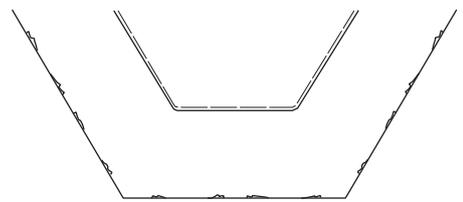
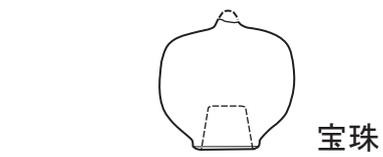
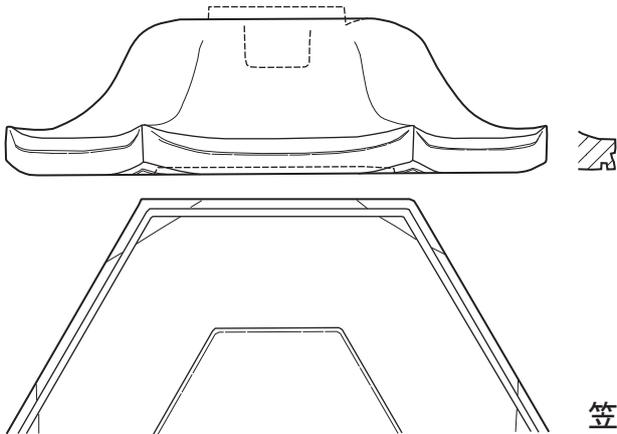
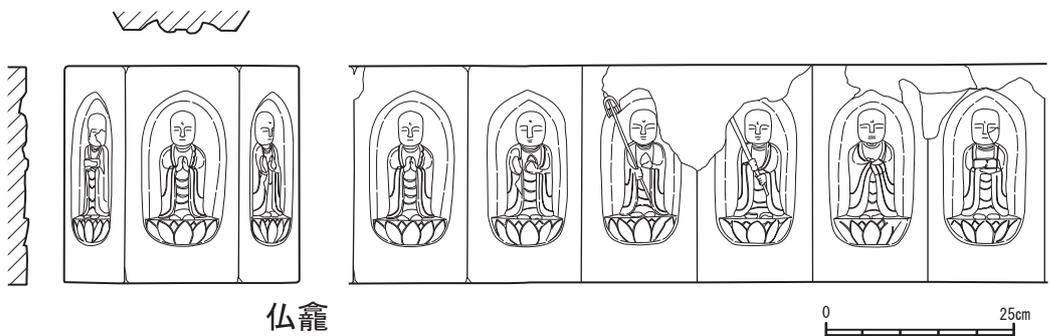


図1 六地藏石幢実測図

※笠下面、仏龕上・下面、中台上面の柄は不明
幢身上・下面、中台下面、基礎上面の柄・柄穴は推定



写真2 宝珠と笠部の柄穴



写真3 笠部軒先の段



写真4 地蔵菩薩立像（施無畏印に宝珠）



写真5 幢身（竿）上部の銘

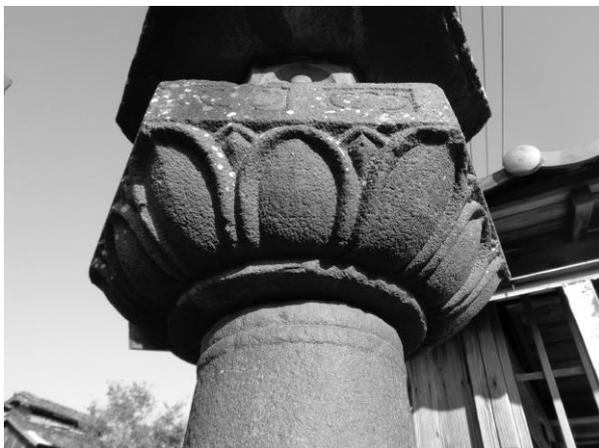


写真6 中台（見上げ）



写真7 幢身（竿）下部の銘

	<p>三重県の文化財保護</p>

平成30年度

発行 令和2年3月

編集 三重県教育委員会

三重県内 国・県指定等文化財数

平成 31 年 3 月 31 日現在

種別		国	県	計
(有形文化財) 重要文化財	建造物（内、国宝 2）	25	44	69
	絵画	20	44	64
	彫刻	67	112	179
	工芸品	18	60	78
	書跡・典籍・古文書（内、国宝文書 3）	45	57	102
	考古資料(内、国宝 1)	10	31	41
	歴史資料	4	10	14
	小計	189	358	547
無形文化財	工芸技術	1	1	2
	芸能	0	1	1
	小計	1	2	3
民俗文化財	無形民俗文化財	10	38	48
	有形民俗文化財	1	25	26
	小計	11	63	74
記念物	特別史跡	1	－	1
	特別天然記念物	2	－	2
	特別名勝及び天然記念物	1	－	1
	史跡	36	71	107
	史跡及び名勝	0	3	3
	史跡及び天然記念物	0	0	0
	名勝	6	8	14
	名勝及び史跡	1	0	1
	名勝及び天然記念物	0	1	1
	天然記念物（地域を定めず）	15	4	19
	天然記念物	21	78	99
	天然記念物及び名勝	1	1	2
	小計	84	166	250
伝統的建造物群保存地区（選定）		1	－	1
文化財の保存技術（選定）		0	0	0
記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財（選択）		15	11	26
重要文化的景観（選定）		0	0	0
登録有形文化財		256	－	256
登録有形民俗文化財		1	－	1
登録記念物		1	－	1
小計		274	11	285
総計		559	600	1159
ふるさと文化財の森		4		4